

小学校のあり方に関するアンケート調査結果について

豊橋市教育委員会

目 次

1. 調査概要	
(1) 目的	3
(2) 対象者等	3
(3) 調査結果の見方	3
2. 調査結果.....	4
3. 自由意見.....	3 1

小学校のあり方に関するアンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 目的

本調査は、今後中長期的に児童数が減少していくことが見込まれるとともに、学校施設の老朽化が進んでいく状況下において、学校の主役である子どもたちの保護者が、どのような学校環境での教育を望んでいるかを調査し、「今後の学校のあり方についての考え方」をまとめるための基礎資料とすることを目的とします。

(2) 対象者等

調査対象	市内小学校に在籍する児童の保護者全世帯 (15,789 世帯)
調査期間	令和元年 5 月 22 日～6 月 7 日
調査方法	学校を通じて配付・回収 (マークシート方式)
回収状況	13,324 件 (回収率: 84.4%) ※無効回答含む
有効回答数	12,935 件 ※読み取り不可及び全設問無回答除く

(3) 調査結果の見方

○比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入により処理していますので、数値の合計が 100%にならない場合があります。

○親設問で回答せずに、付問に回答している場合は無効回答として扱い集計に含めていません。

○設問や選択肢については、本来の意味を損なわない程度に表現を変更して掲載している場合があります。

○学校規模別については、文部科学省の分類に基づき、小規模校は 11 学級以下、適正規模校は 12～18 学級、大規模校は 19 学級以上で区分をしています。

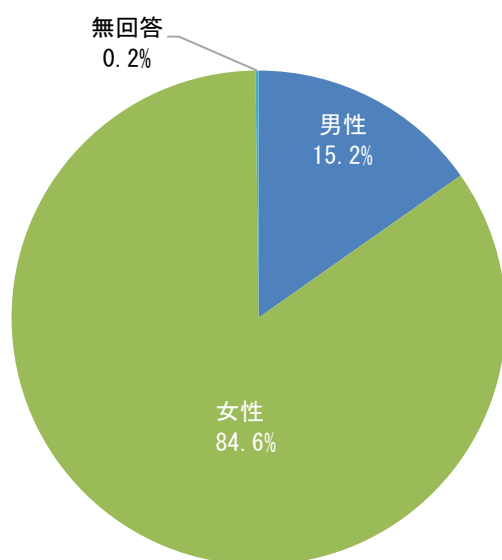
<学校規模別内訳>

(5 月 1 日現在の学級数)

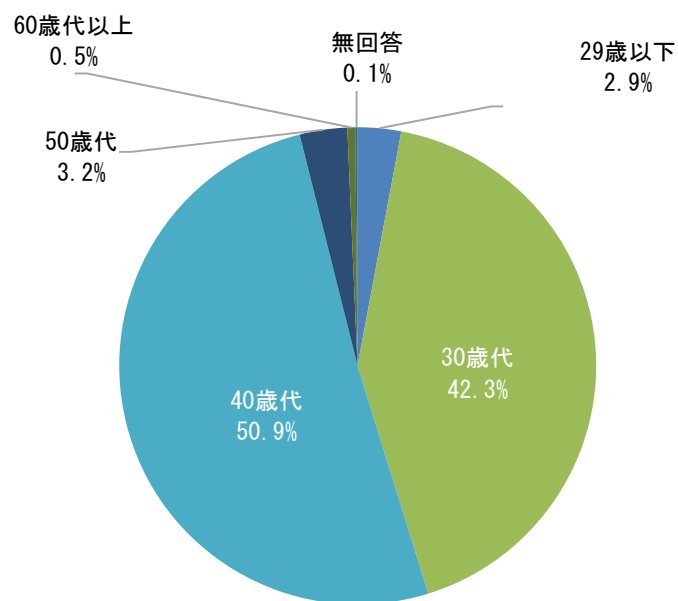
規模	小規模 (～11 学級)	適正規模 (12～18 学級)	大規模 (19 学級～)
校数	21 校	20 校	11 校
学校名	4 八町、7 松山、11 大村、 12 津田、22 大崎、 27 下条、32 旭、34 天伯、 38 前芝、39 西郷、 40 玉川、41 嵩山、 42 石巻、43 谷川、 44 小沢、45 細谷、 48 豊南、49 高根、 50 老津、51 杉山、52 賀茂	2 豊、3 東田、5 松葉、 6 花田、8 新川、9 羽根井、 10 下地、14 汐田、18 芦原、 19 福岡、20 中野、23 野依、 24 植田、29 岩西、 31 つつじが丘、35 大清水、 36 富士見、37 向山、 46 二川、47 二川南	1 岩田、13 牟呂、15 吉田方、 16 高師、17 幸、21 磯辺、 25 牛川、26 鷹丘、28 多米、 30 飯村、33 栄

2. 調査結果

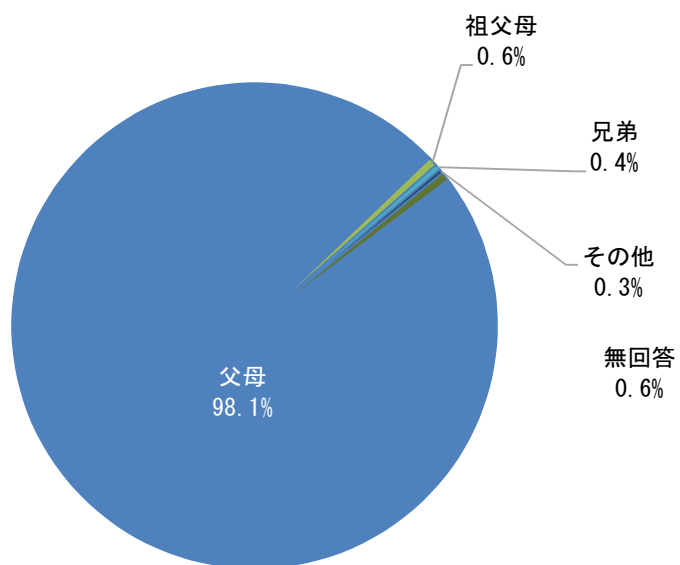
問A 性別 (n=12,935)



問B 年齢 (n=12,935)



問C 続柄 (n=12,935)



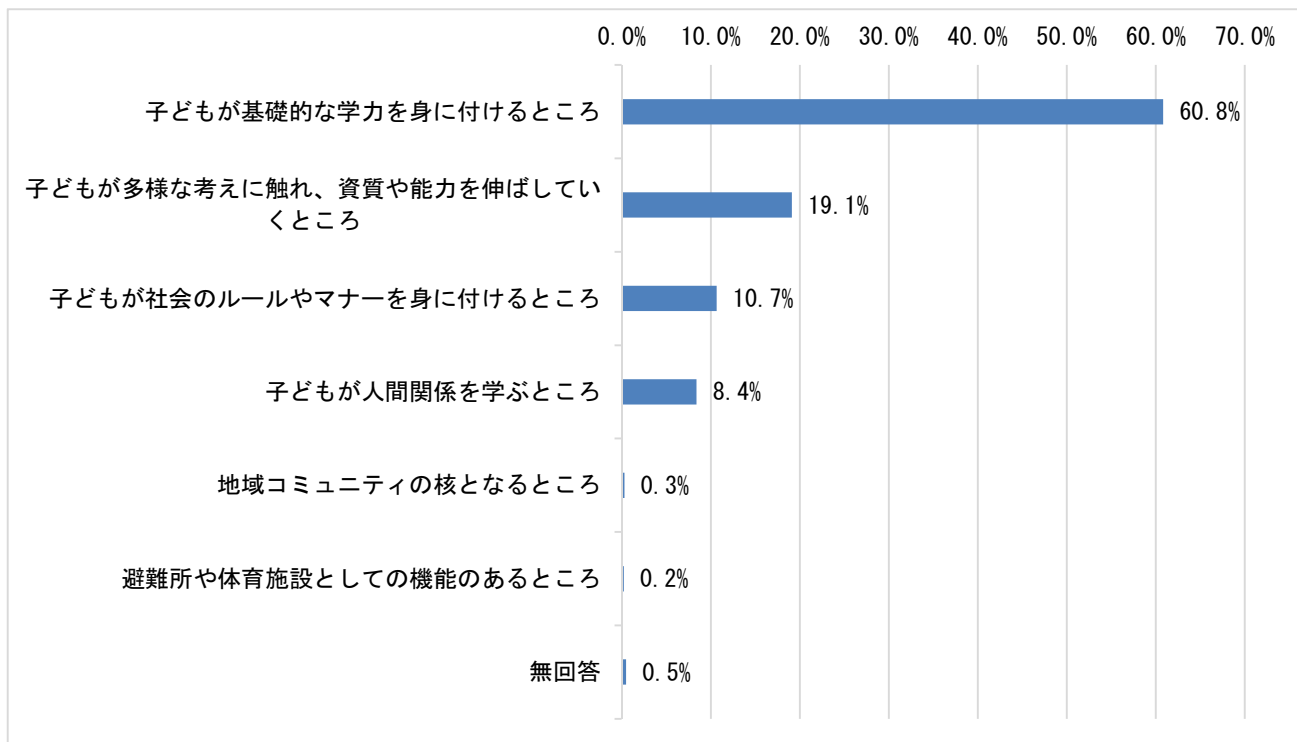
問D 学校名 (n=12,935)

(略)

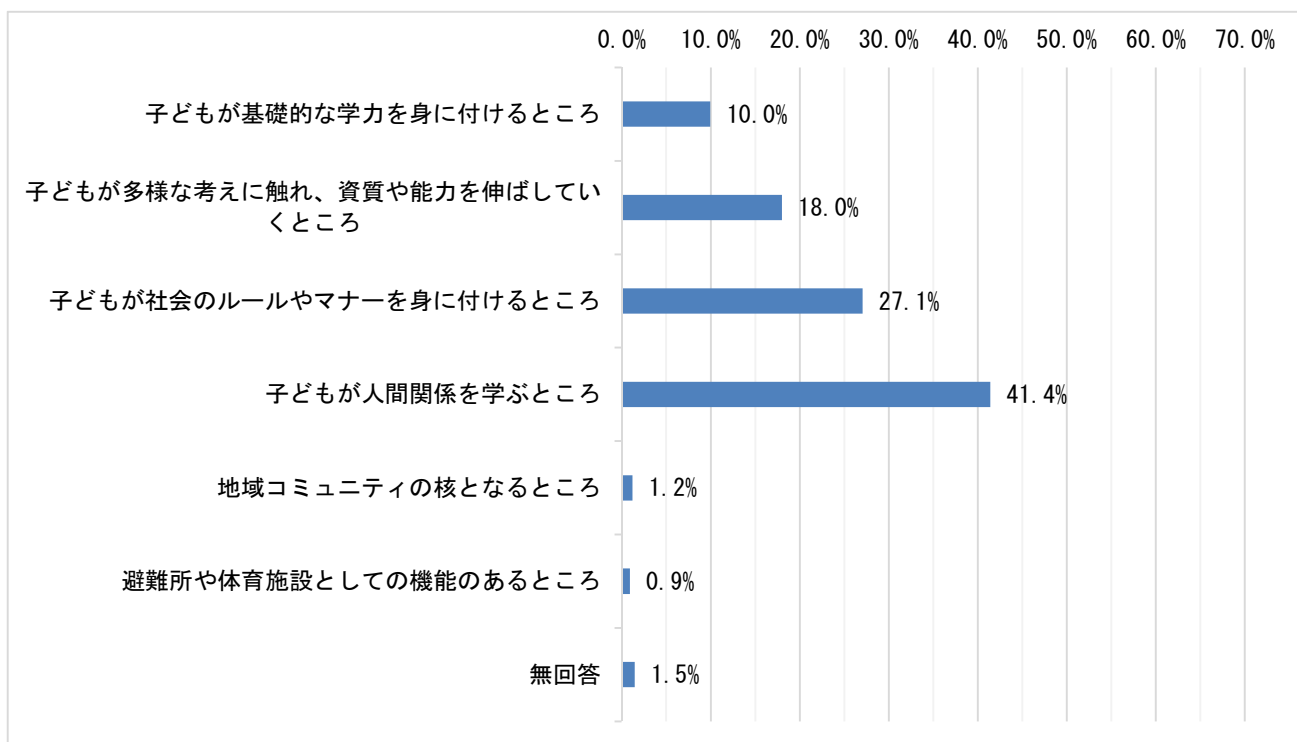
問E 小学校はどのようなところであるべきだと思いますか。(n=12,935)

①の最もあてはまるものについては、「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」が60.8%と最も高い割合を占めています。また、②の次にあてはまるものについては、「子どもが人間関係を学ぶところ」が41.4%と最も高く、次いで、「子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ」が27.1%などとなっています。

①最もあてはまるもの

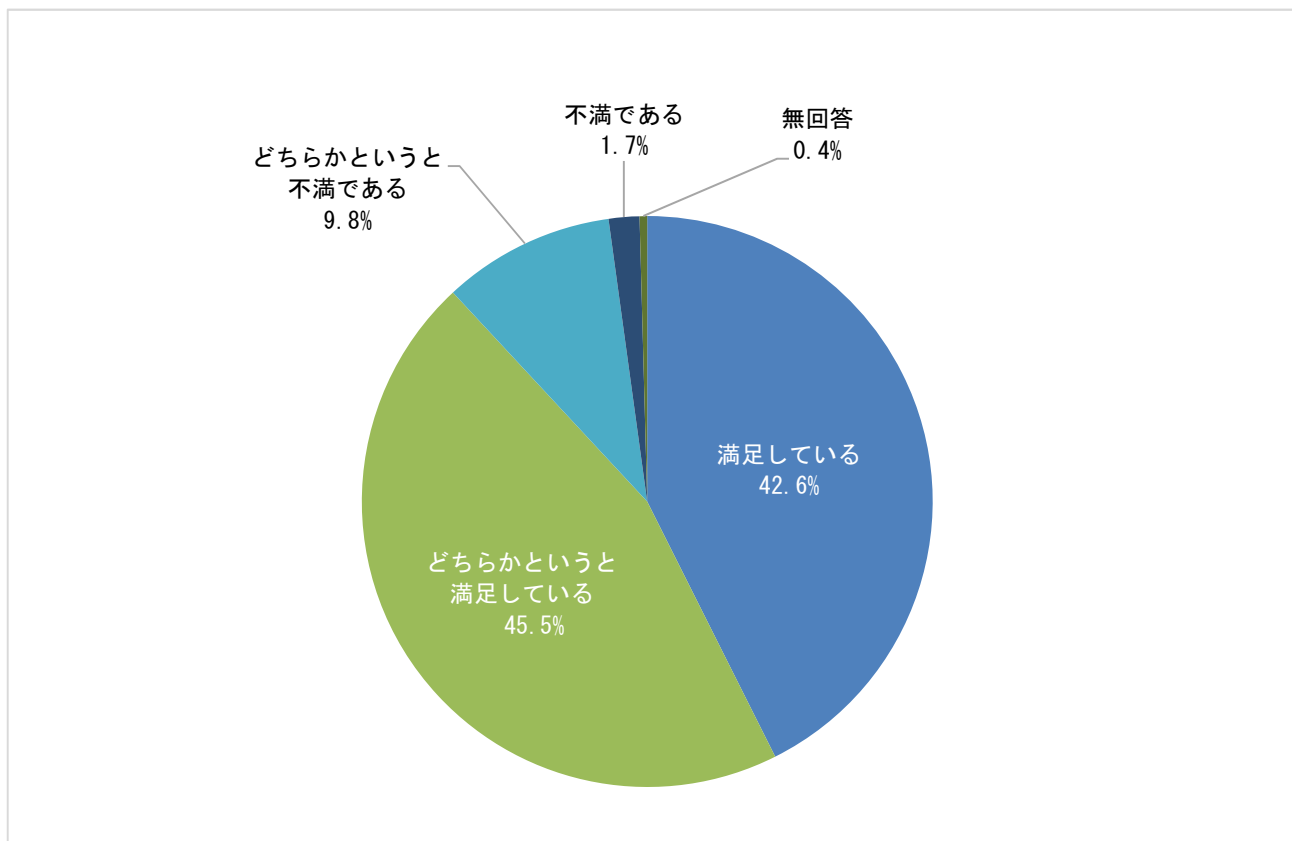


②次にあてはまるもの

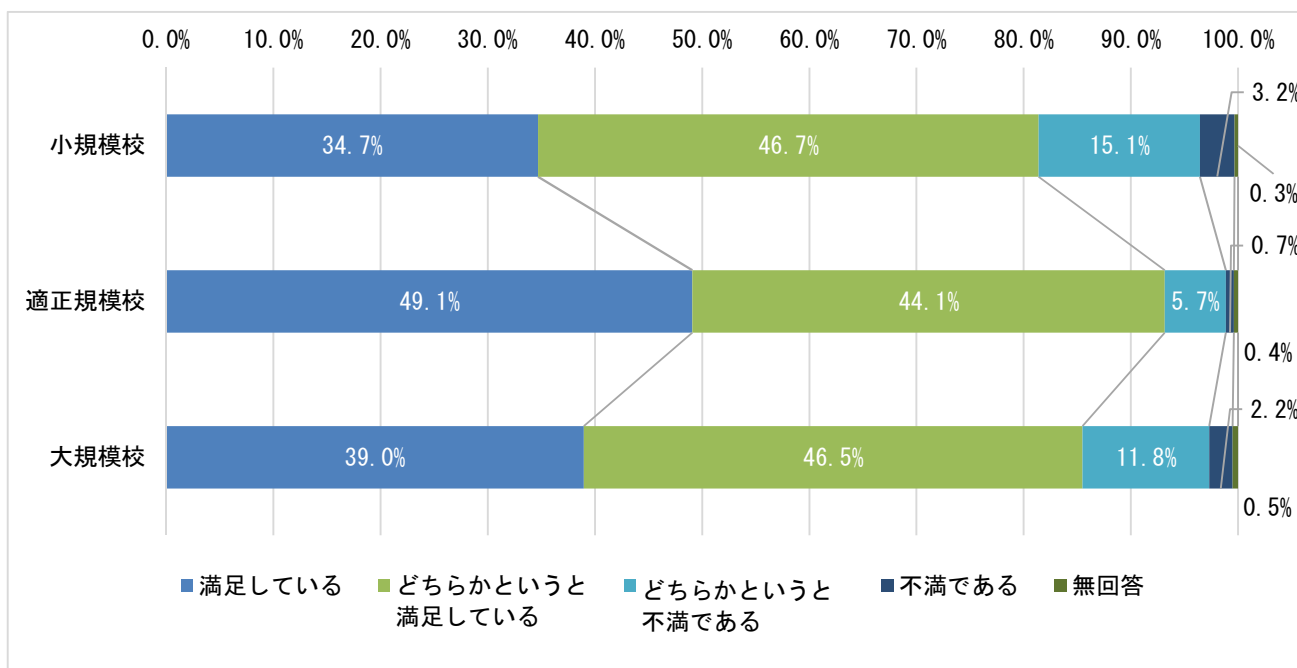


問F 現在通っている学校規模に満足していますか。(n=12,935)

学校規模に対する満足度は、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が88.1%を占めており、極めて高い割合となっています。学校規模別で見ると、小規模校については『満足』が81.4%となっており、小学校全体よりも満足度が低く、「どちらかという不満である」の割合が高くなっています。

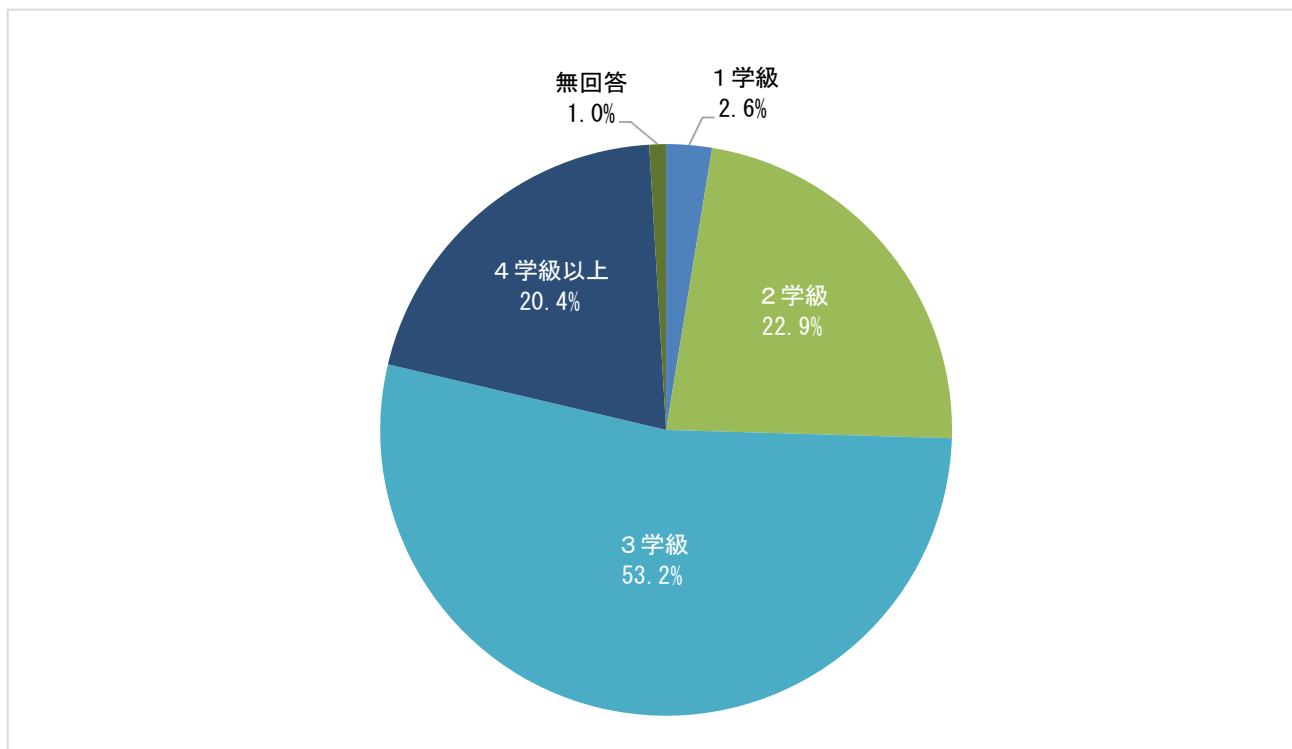


<学校規模別> (小規模校：n=2,363、適正規模校：n=5,623、大規模校：n=4,949)

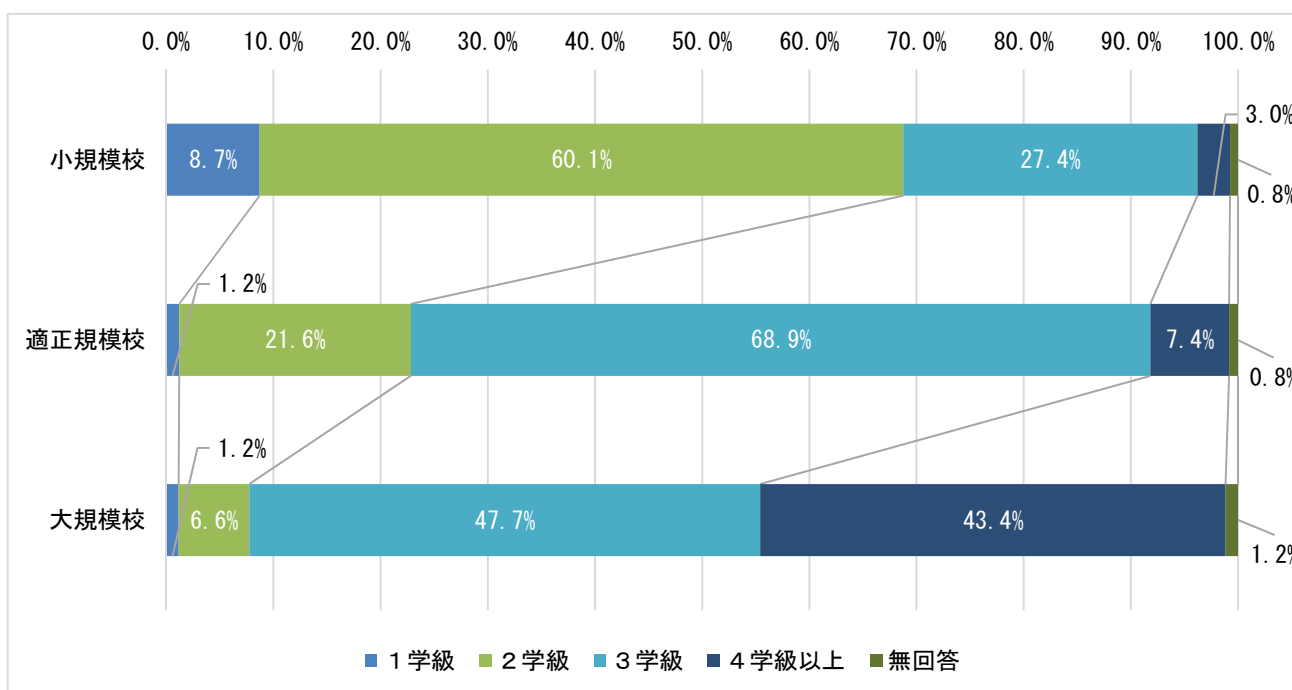


問G 1学年あたりの理想的な学級数はどのくらいだと思いますか。(n=12,935)

1学年あたりの理想的な学級数は、「3学級」が53.2%と最も高い割合を占めています。学校規模別で見ると、小規模校は「2学級」が60.1%、適正規模校は「3学級」が68.9%と高い割合を占めています。また、大規模校は「3学級」が47.7%、「4学級以上」が43.4%とほぼ同じような割合を占めています。



<学校規模別> (小規模校：n=2,363、適正規模校：n=5,623、大規模校：n=4,949)

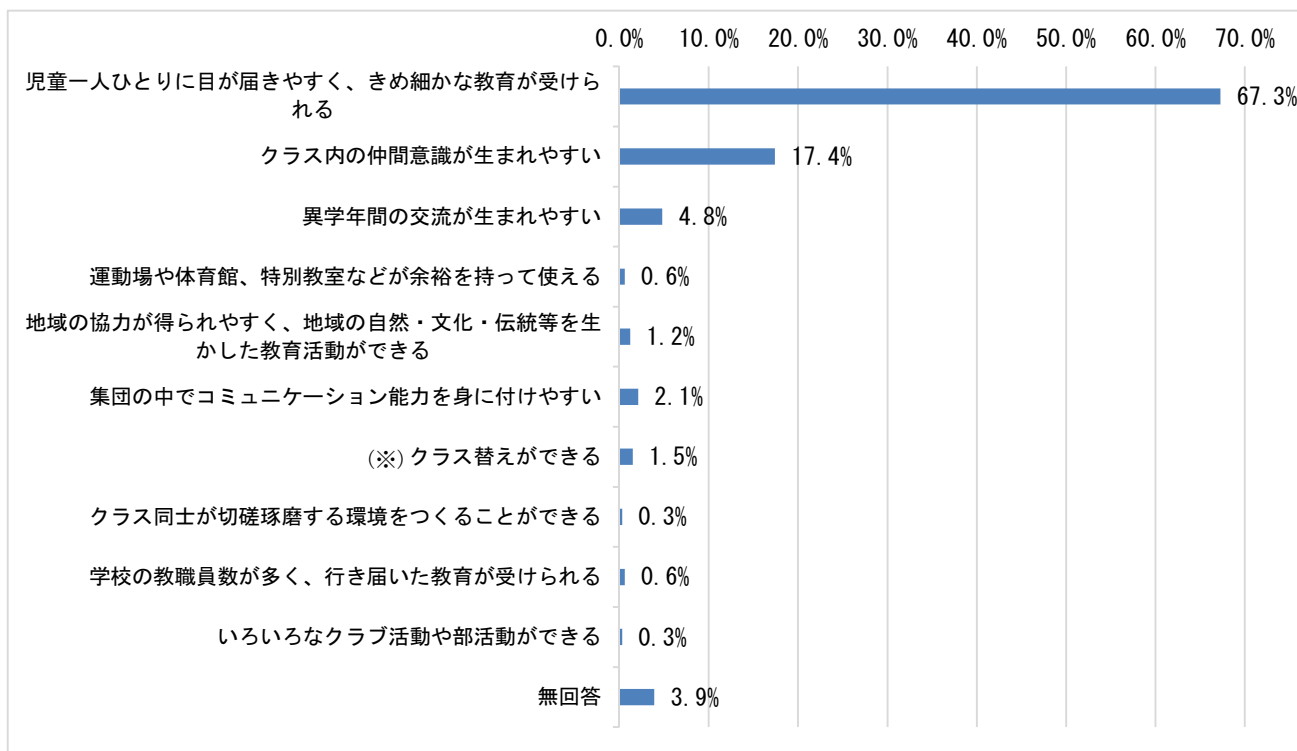


問H 問Gの理由として当てはまるものは何ですか。

<1学級> (n=333)

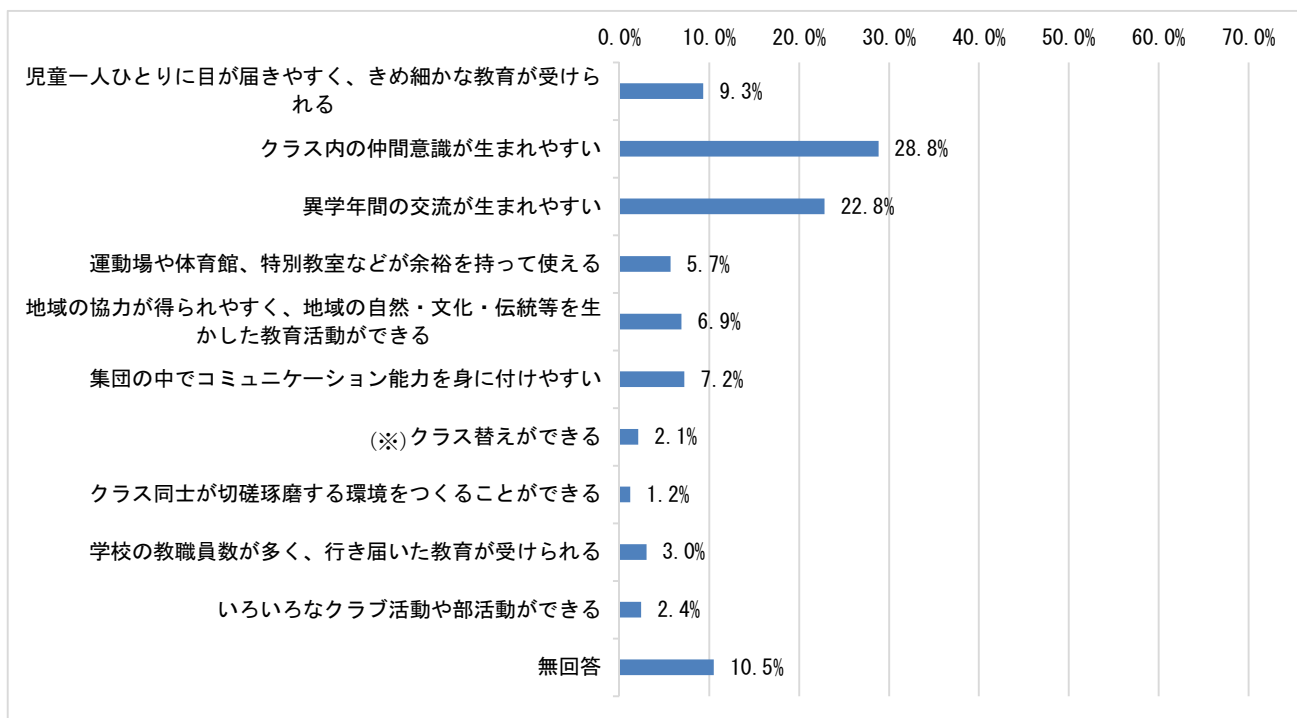
1学級を選んだ理由として、①の最もあてはまるものについては、「児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる」が67.3%と最も高い割合を占めています。また、②の次にあてはまるものについては、「クラス内の仲間意識が生まれやすい」が28.8%と最も高く、次いで、「異学年間の交流が生まれやすい」が22.8%などとなっています。

①最もあてはまるもの



※ 設問に対して矛盾した回答となっていますが、集計に含めています。

②次にあてはまるもの

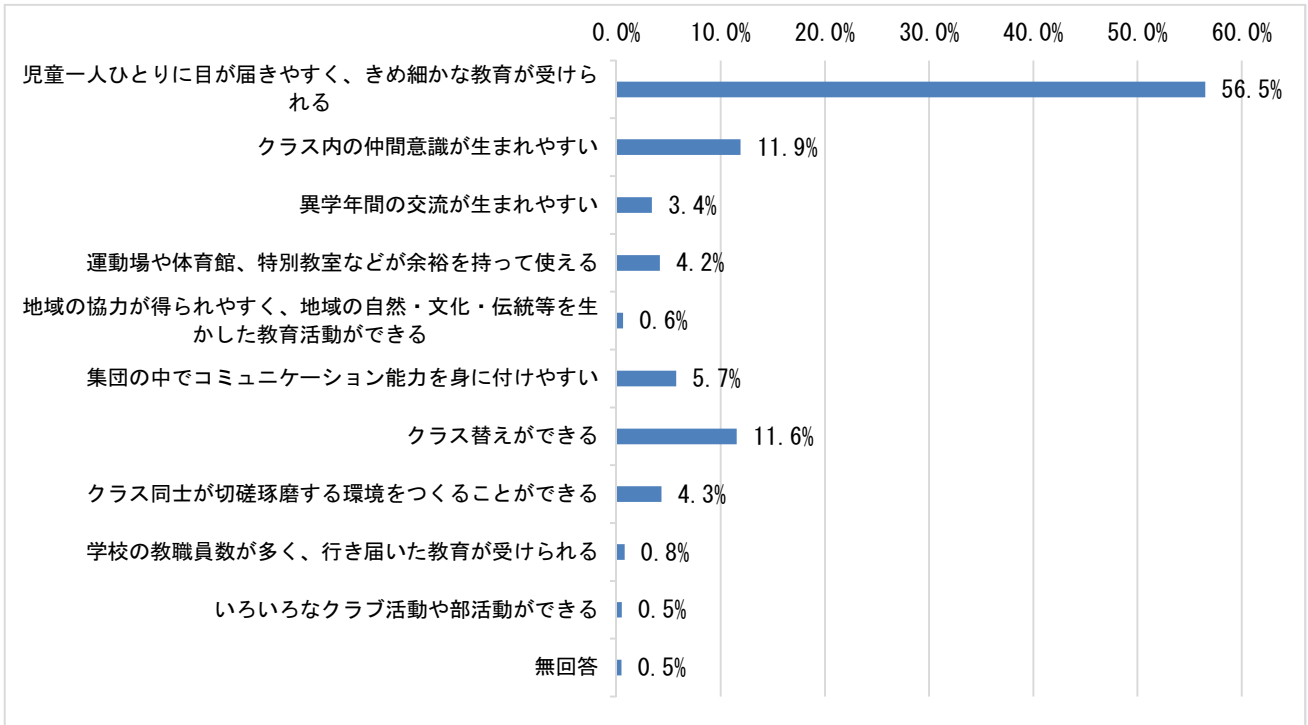


※ 設問に対して矛盾した回答となっていますが、集計に含めています。

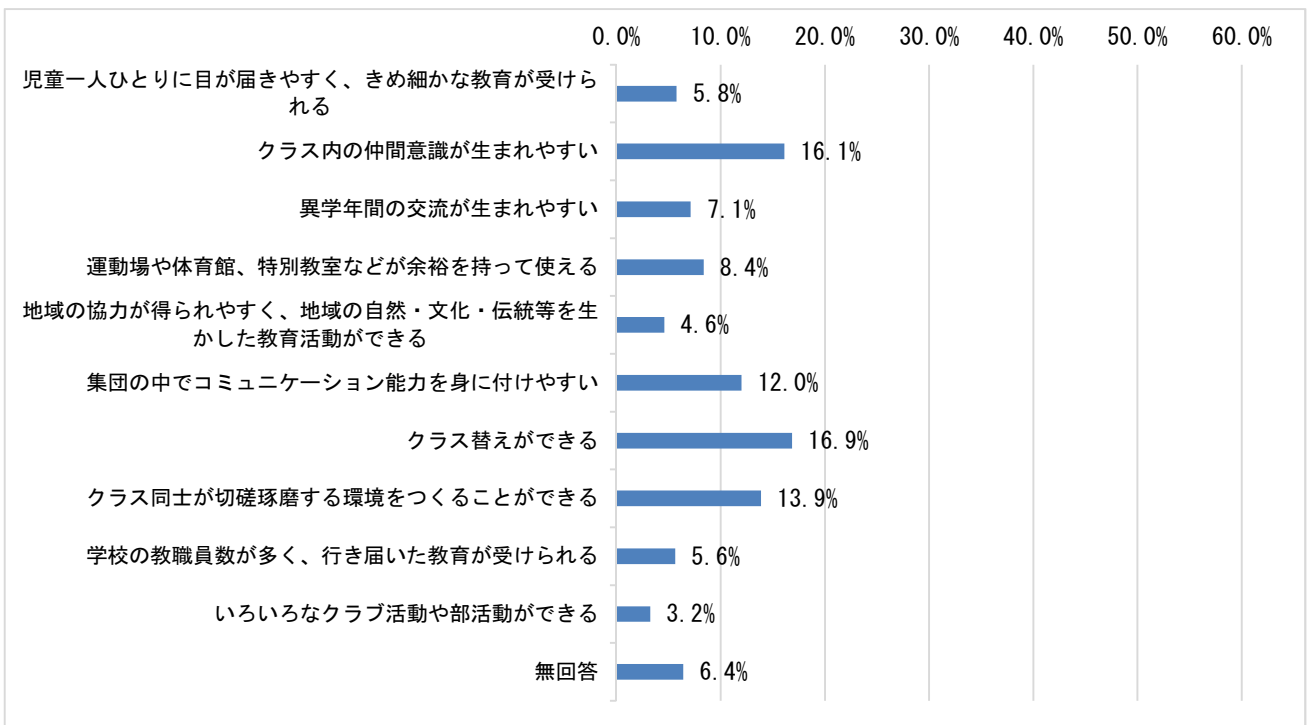
<2学級> (n=2,961)

2学級を選んだ理由として、①の最もあてはまるものについては、「児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる」が56.5%と最も高い割合を占めています。また、②の次にあてはまるものについては、「クラス替えができる」が16.9%と最も高く、次いで、「クラス内の仲間意識が生まれやすい」が16.1%などとなっています。

①最もあてはまるもの



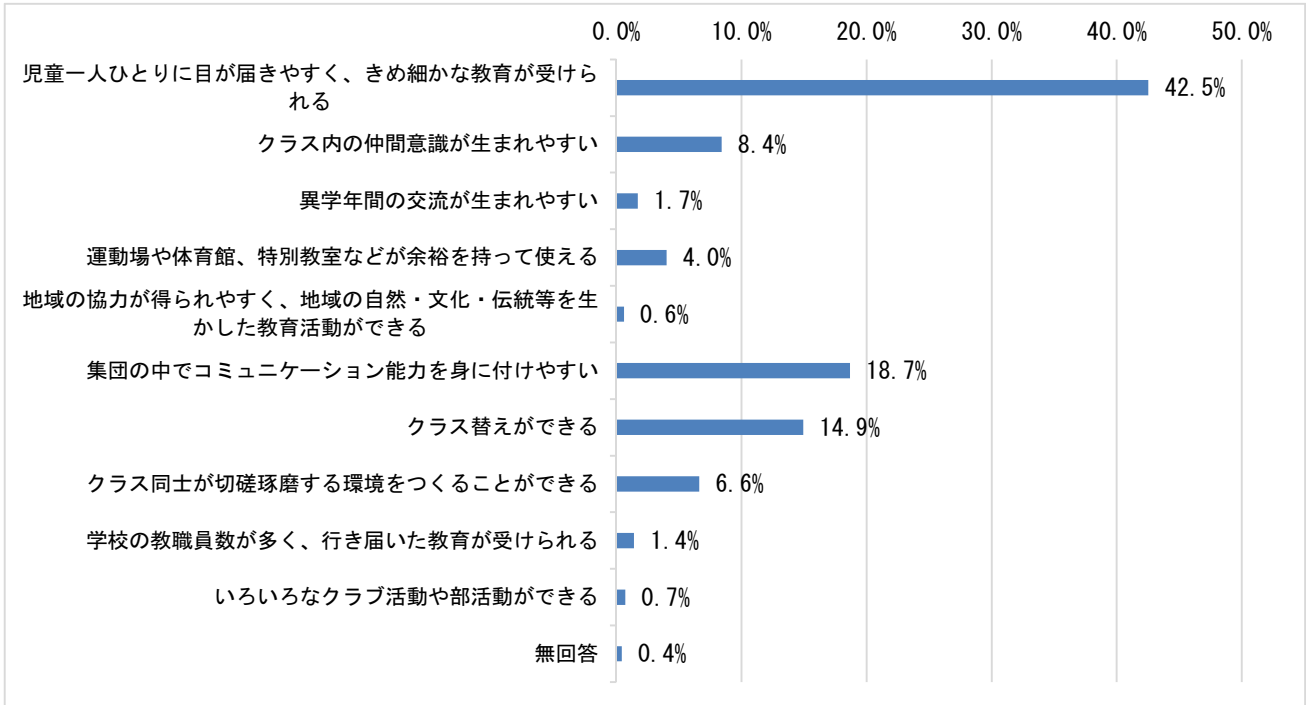
②次にあてはまるもの



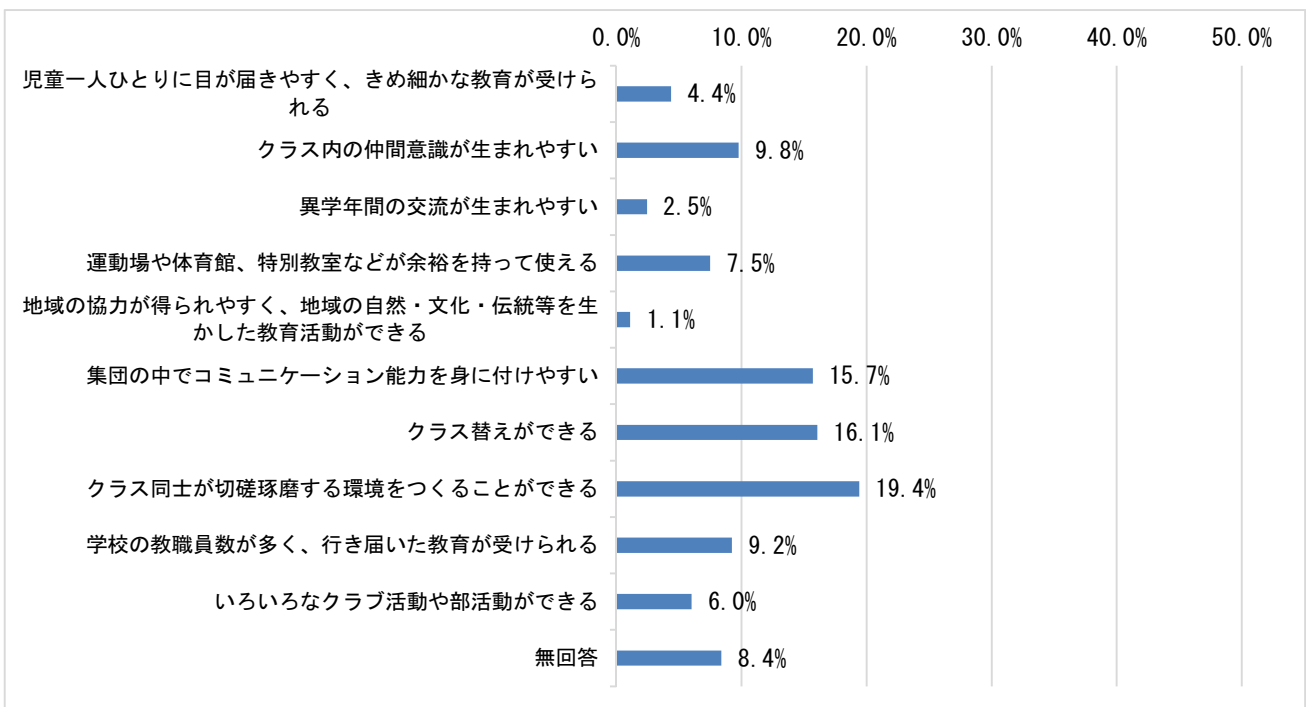
<3学級> (n=6,884)

3学級を選んだ理由として、①の最もあてはまるものについては、「児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる」が42.5%と最も高い割合を占めています。また、②の次にあてはまるものについては、「クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることができる」が19.4%と最も高く、次いで、「クラス替えができる」が16.1%などとなっています。

①最もあてはまるもの



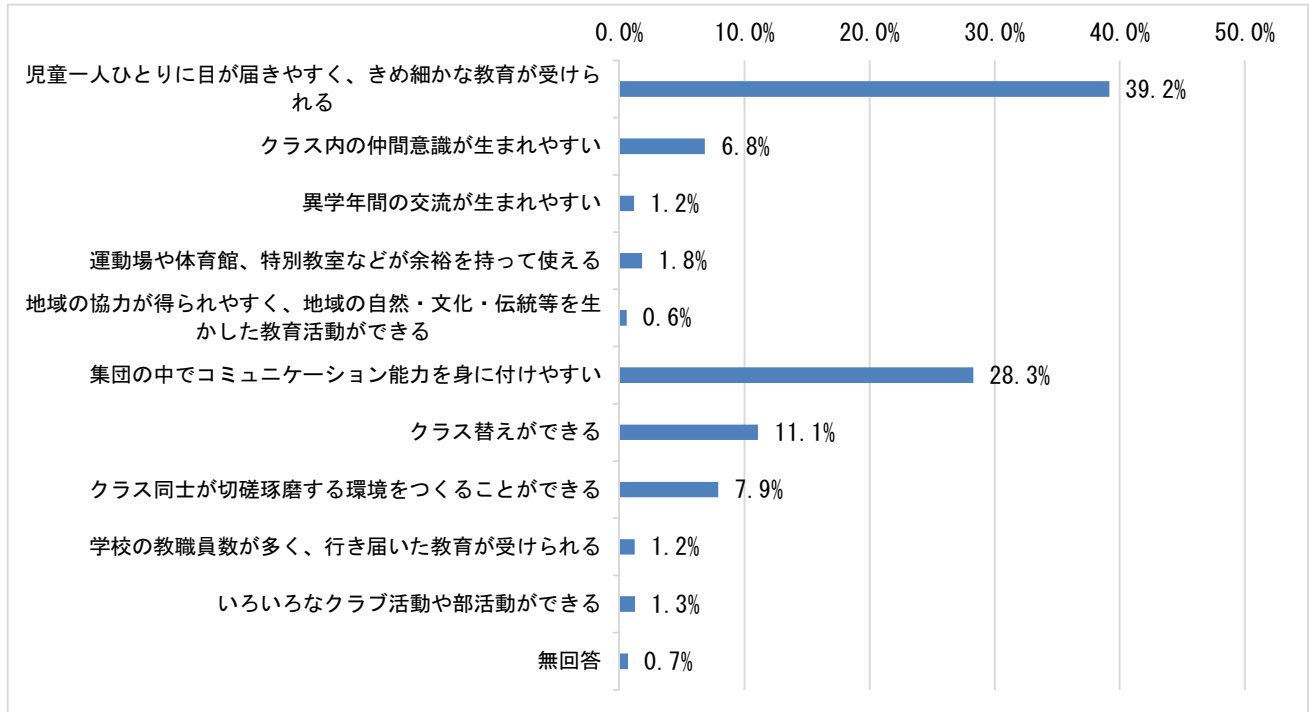
②次にあてはまるもの



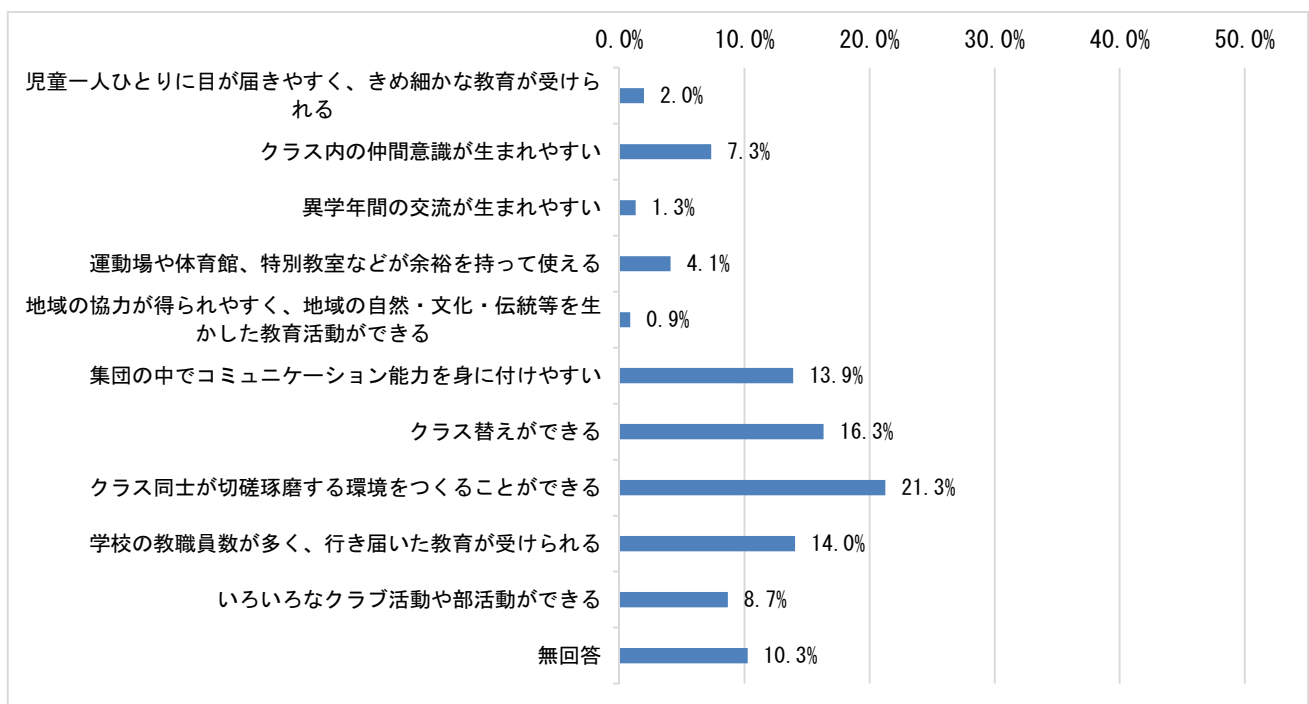
< 4 学級以上 > (n = 2, 634)

4 学級以上を選んだ理由として、①の最もあてはまるものについては、「児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる」が 39.2%と最も高い割合を占めています。また、②の次にあてはまるものについては、「クラス同士が切磋琢磨する環境をつくること」が 21.3%と最も高く、次いで、「クラス替えができる」が 16.3%などとなっています。

①最もあてはまるもの



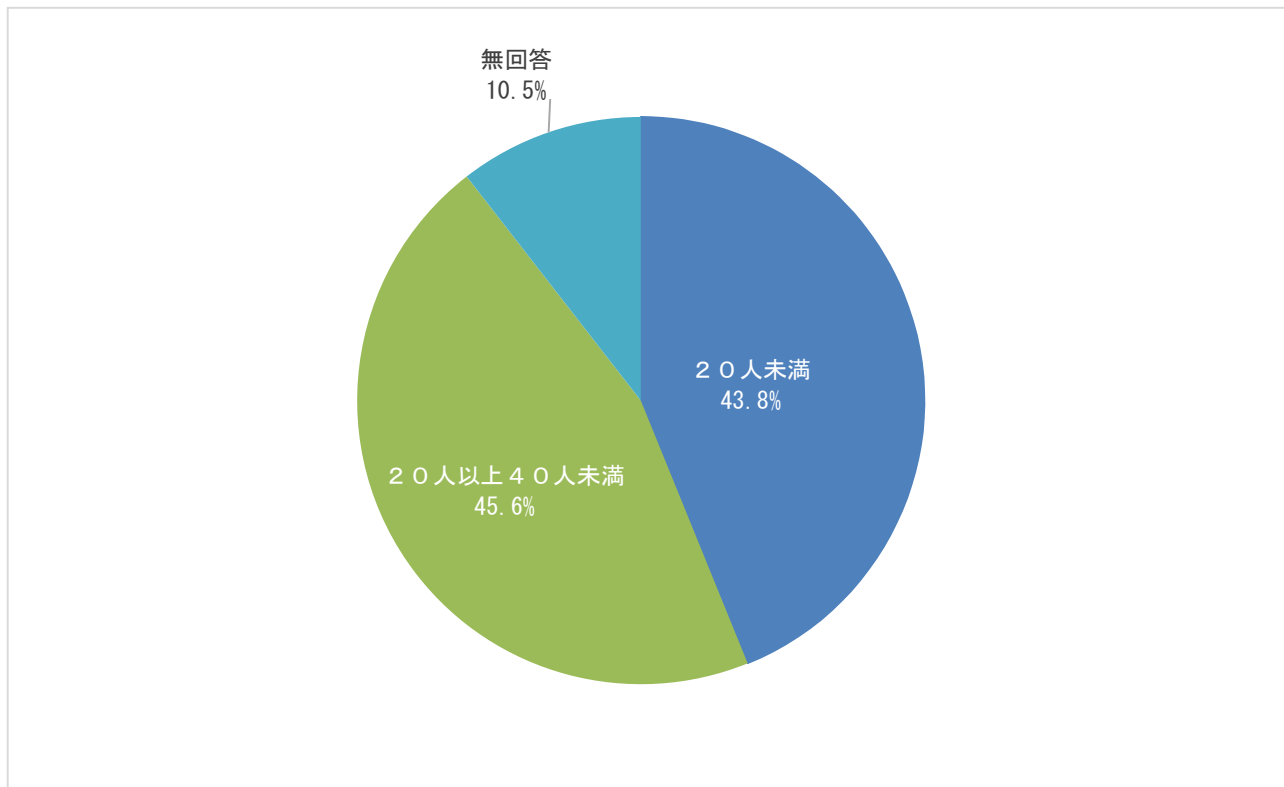
②次にあてはまるもの



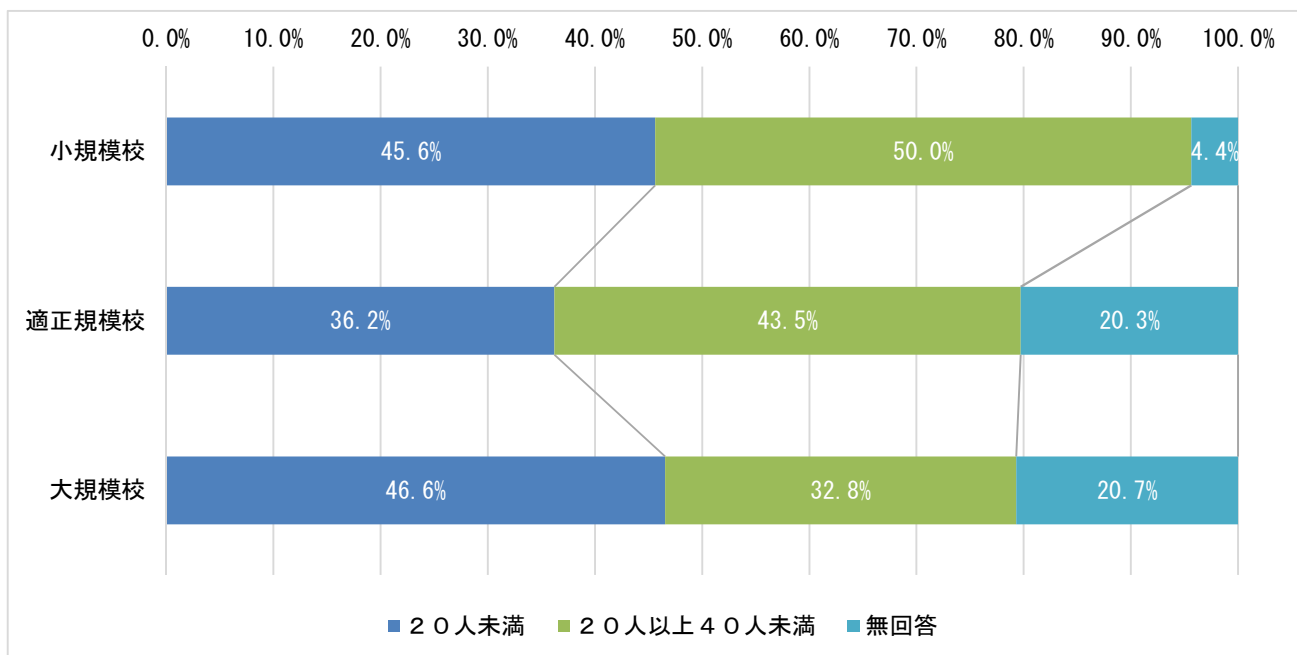
問 I 1 学級あたりの適当だと思う児童数はどのくらいだと思いますか。

(問 G で「1 学級」を選択した場合のみ回答、n = 333)

理想的な学級数を「1 学級」と回答した方が、1 学級あたりの適当だと思う児童数は、「20 人以上 40 人未満」が 45.6%、「20 人未満」が 43.8%とほぼ同じような割合を占めています。学校規模別でみると、小規模校及び適正規模校は「20 人以上 40 人未満」の割合の方が高い一方で、大規模校は「20 人未満」の割合の方が高くなっています。



<学校規模別> (小規模校 : n = 206、適正規模校 : n = 69、大規模校 : n = 58)

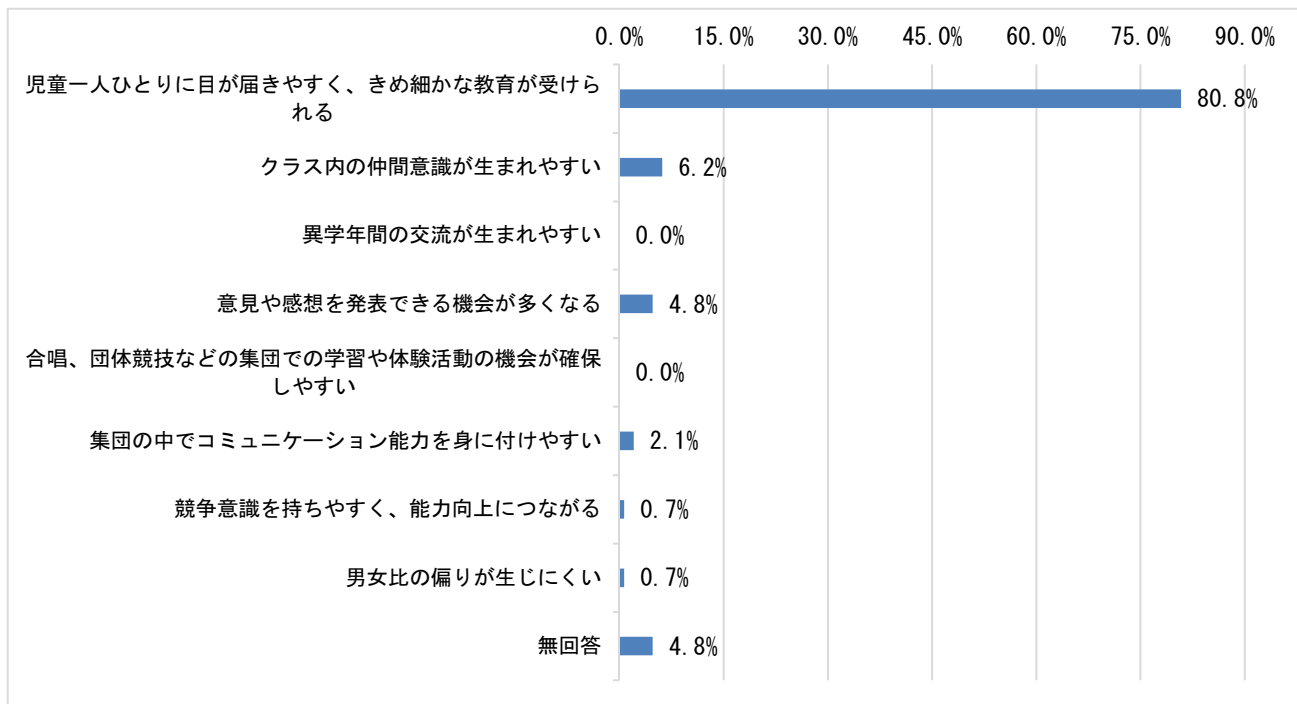


問J 問Iの理由として当てはまるものは何ですか。(問Gで「1学級」を選択した場合のみ回答)

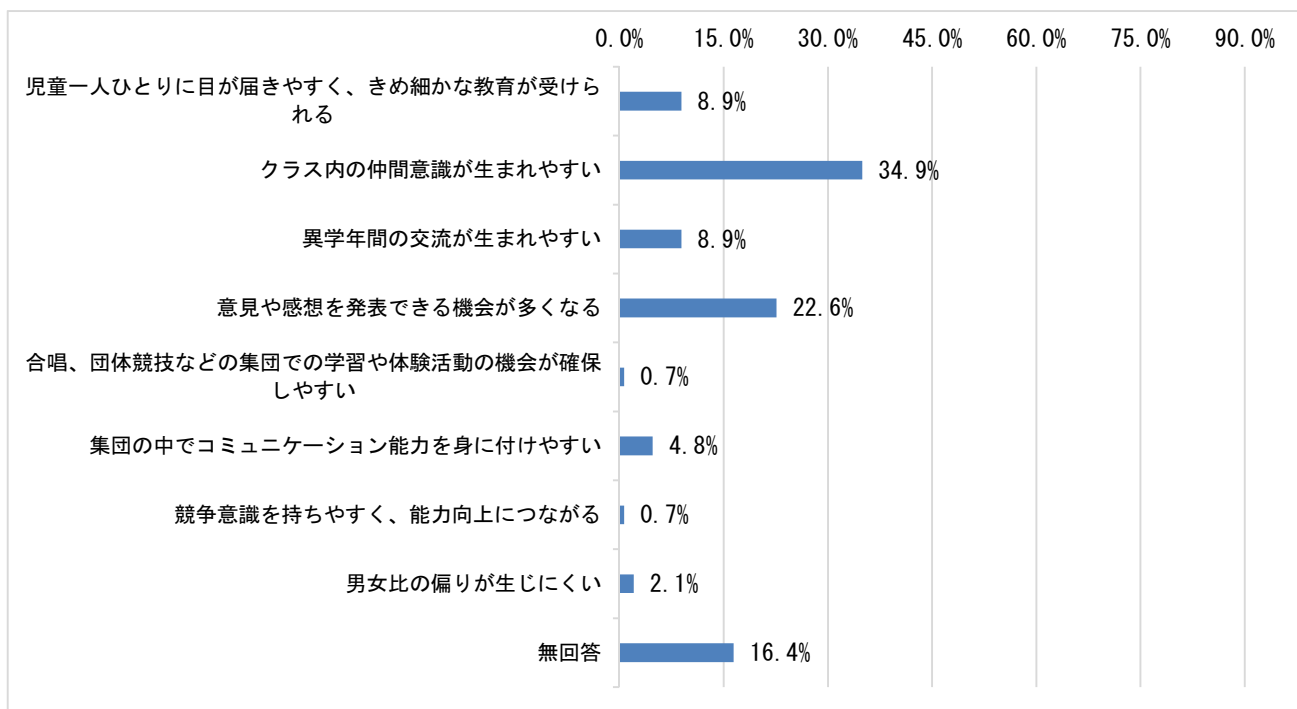
<1学級あたり20人未満> (n=146)

20人未満を選んだ理由として、①の最もあてはまるものについては、「児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる」が80.8%と最も高い割合を占めており、極めて高い割合となっています。また、②の次にあてはまるものについては、「クラス内の仲間意識が生まれやすい」が34.9%と最も高く、次いで、「意見や感想を発表できる機会が多くなる」が22.6%などとなっています。

①最もあてはまるもの



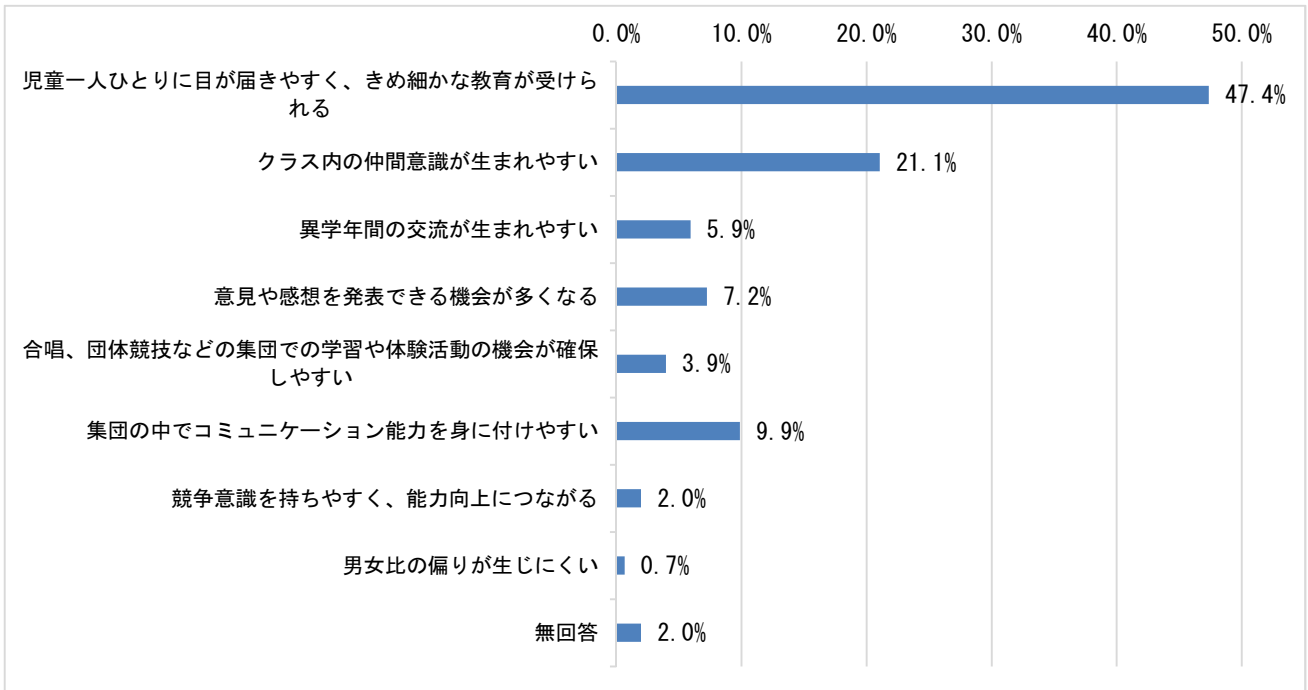
②次にあてはまるもの



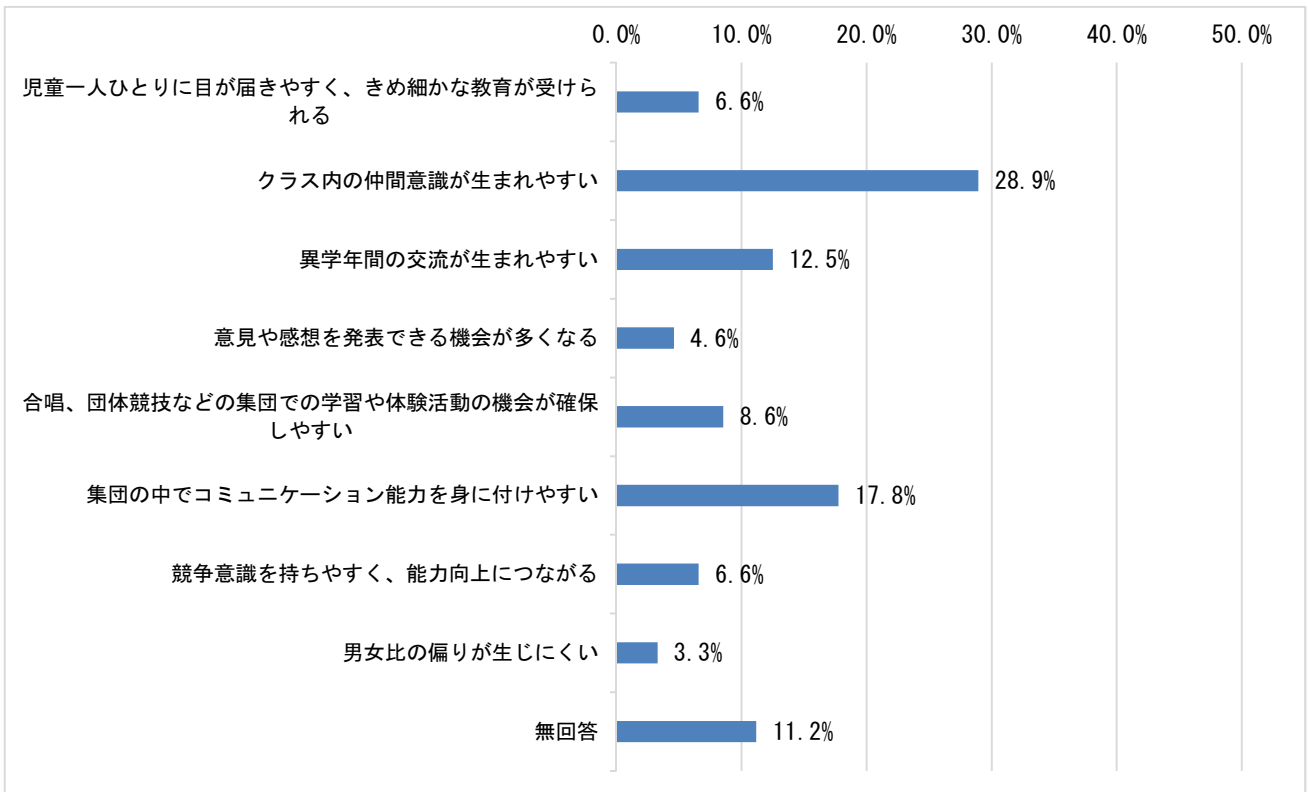
<1学級あたり20人以上40人未満> (n=152)

20人以上40人未満を選んだ理由として、①の最もあてはまるものについては、「児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる」が47.4%と最も高い割合を占めています。また、②の次にあてはまるものについては、「クラス内の仲間意識が生まれやすい」が28.9%と最も高く、次いで、「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」が17.8%などとなっています。

①最もあてはまるもの

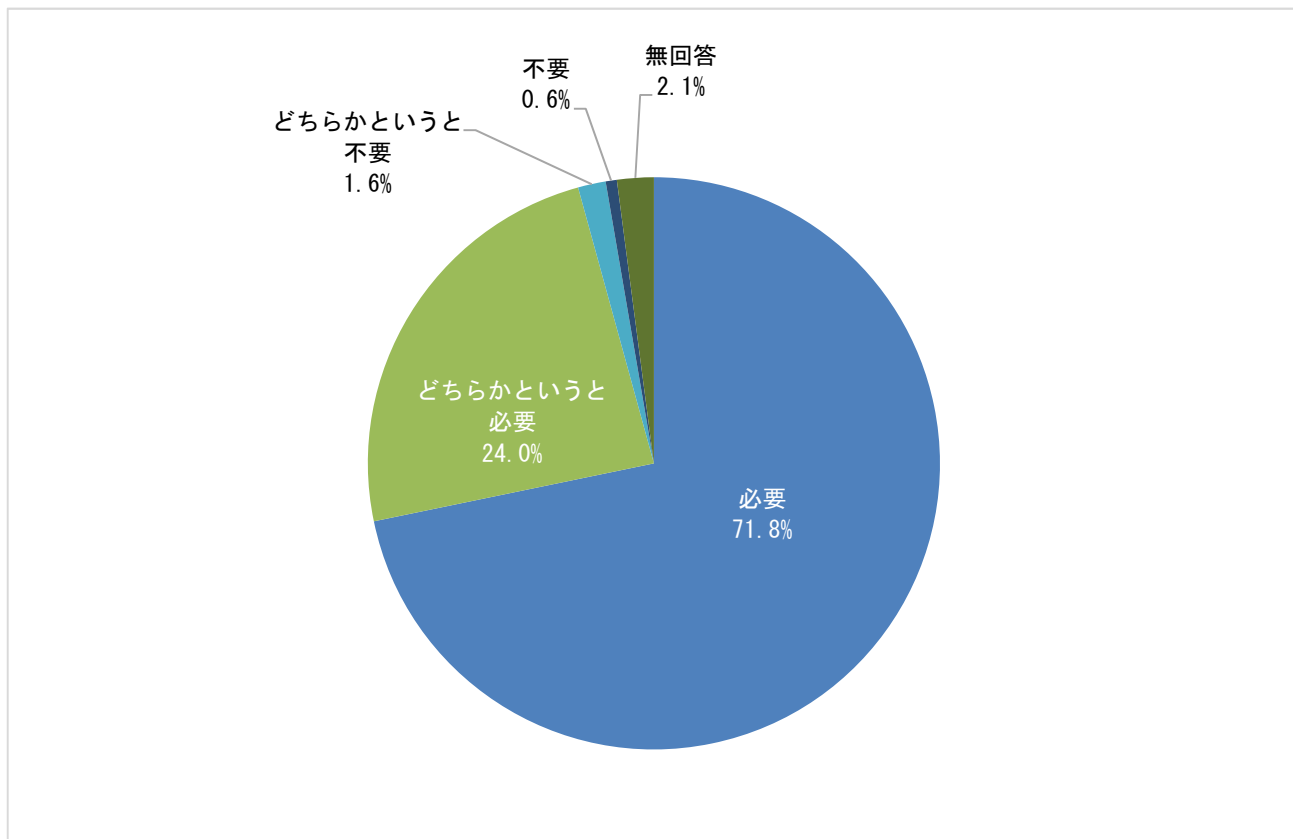


②次にあてはまるもの

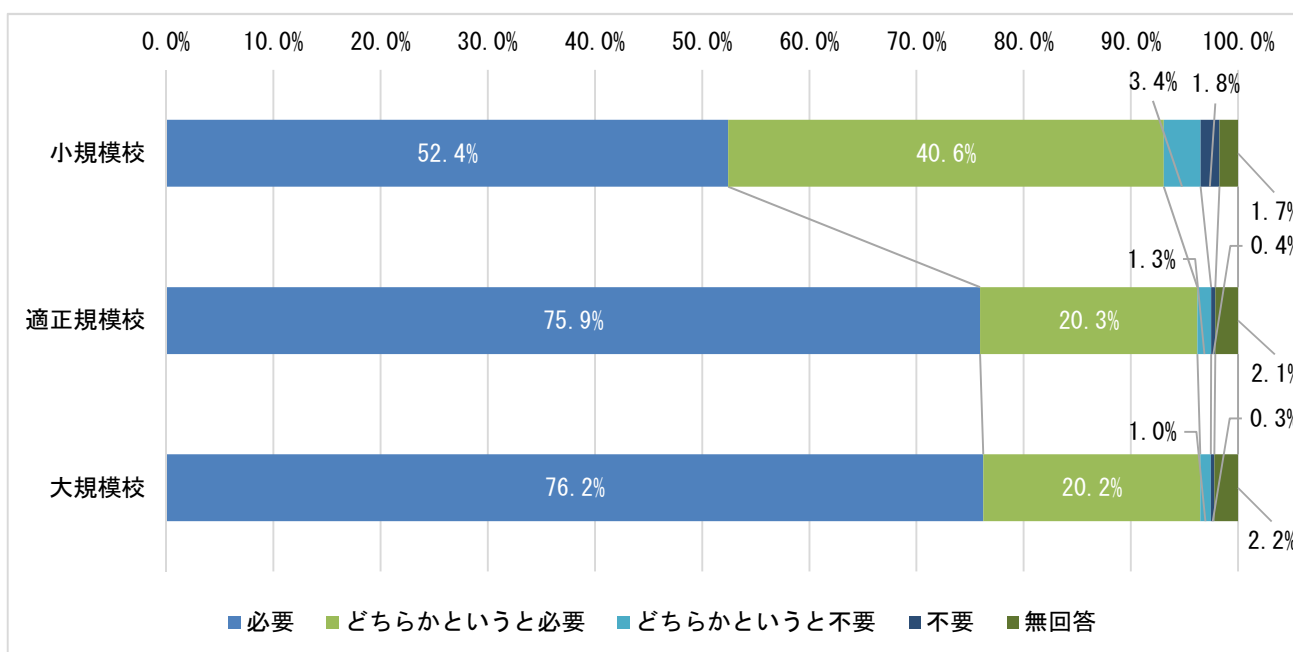


問K クラス替えが必要だと思いますか。(n=12,935)

クラス替えの必要性については、「必要」と「どちらかという必要」を合わせた割合が 95.8%を占めており、極めて高い割合となっています。学校規模別でみると、小規模校の「必要」の割合は、他の規模と比較すると 24 ポイント程度低い割合となっています。



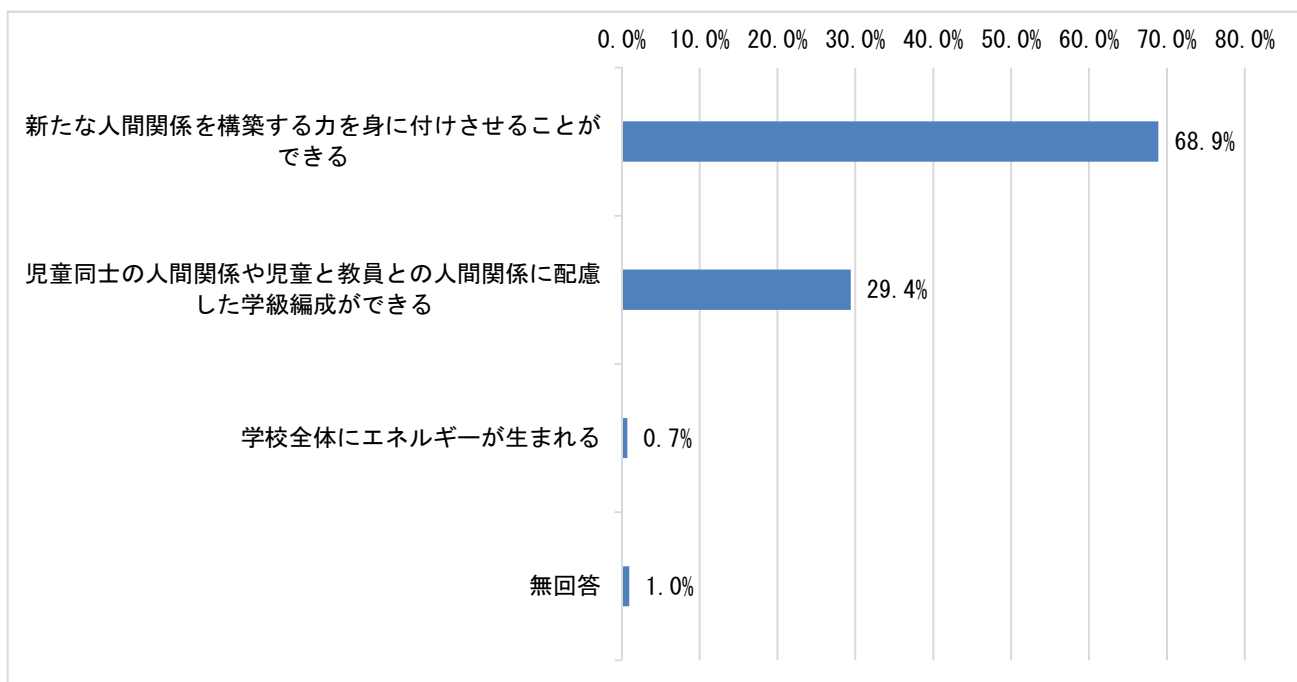
<学校規模別> (小規模校：n=2,363、適正規模校：n=5,623、大規模校：n=4,949)



問L クラス替えがなぜ必要だと思いますか。

(問Kで「必要」または「どちらかという必要」を選択した場合のみ回答、n=12,382)

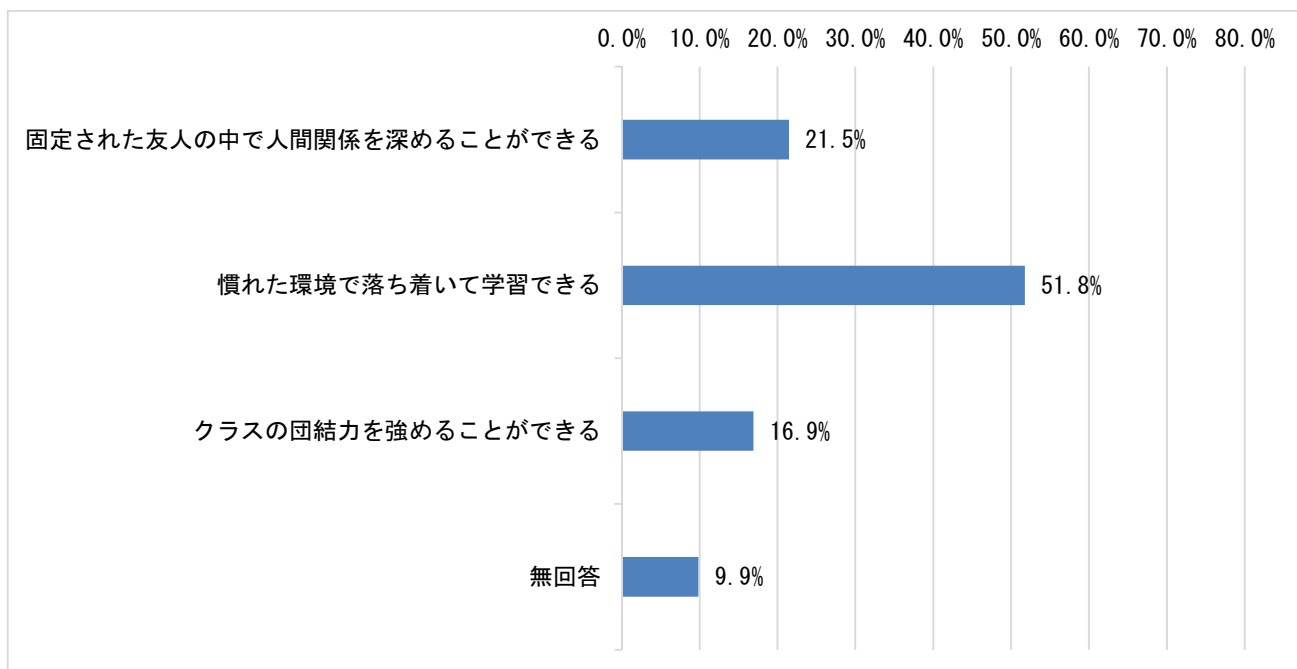
クラス替えが必要な理由として、「新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる」が68.9%と最も高い割合を占めており、次いで、「児童同士の間人間関係や児童と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる」が29.4%などとなっています。



問M クラス替えがなぜ不要だと思いますか。

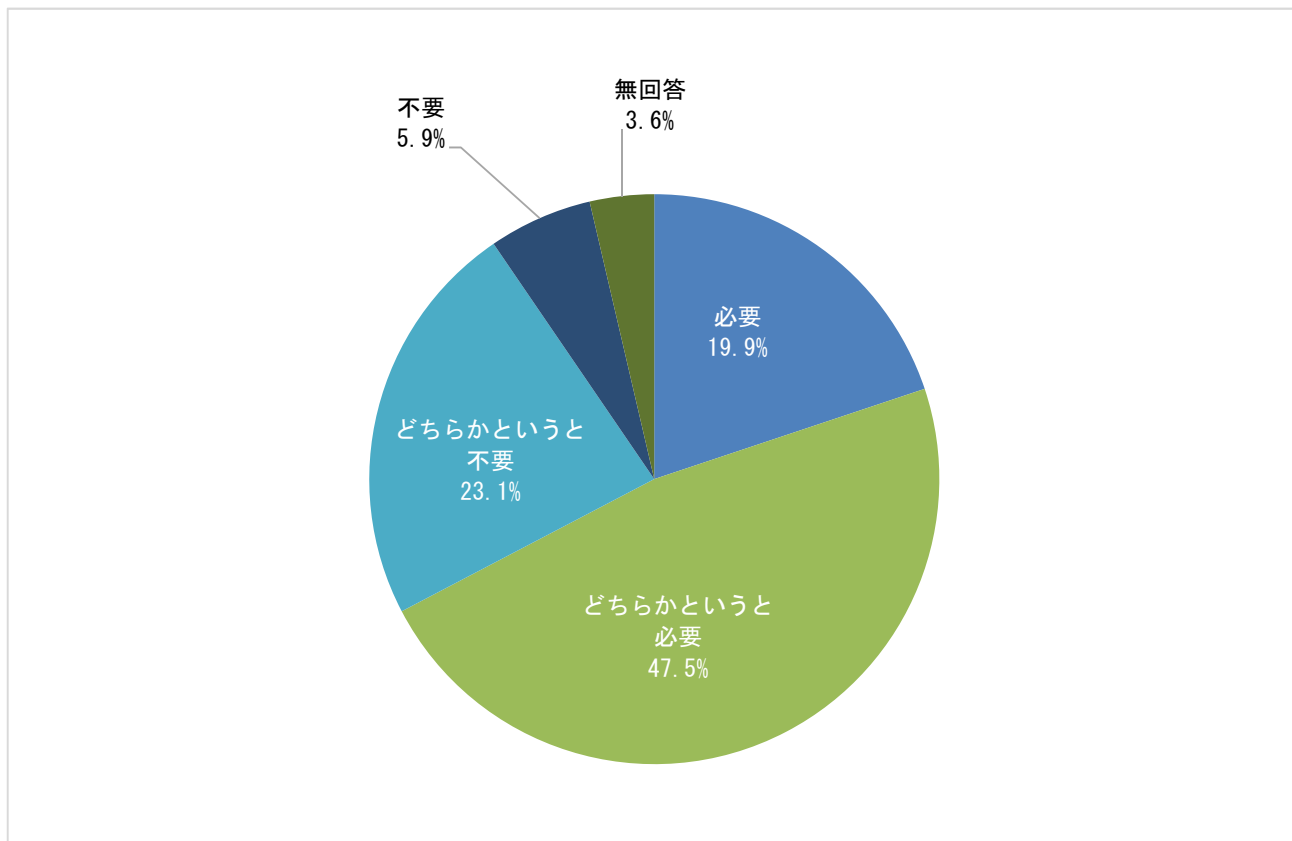
(問Kで「不要」または「どちらかという不要」を選択した場合のみ回答、n=284)

クラス替えが不要な理由として、「慣れた環境で落ち着いて学習できる」が51.8%と最も高い割合を占めており、次いで、「固定された友人の中で人間関係を深めることができる」が21.5%などとなっています。

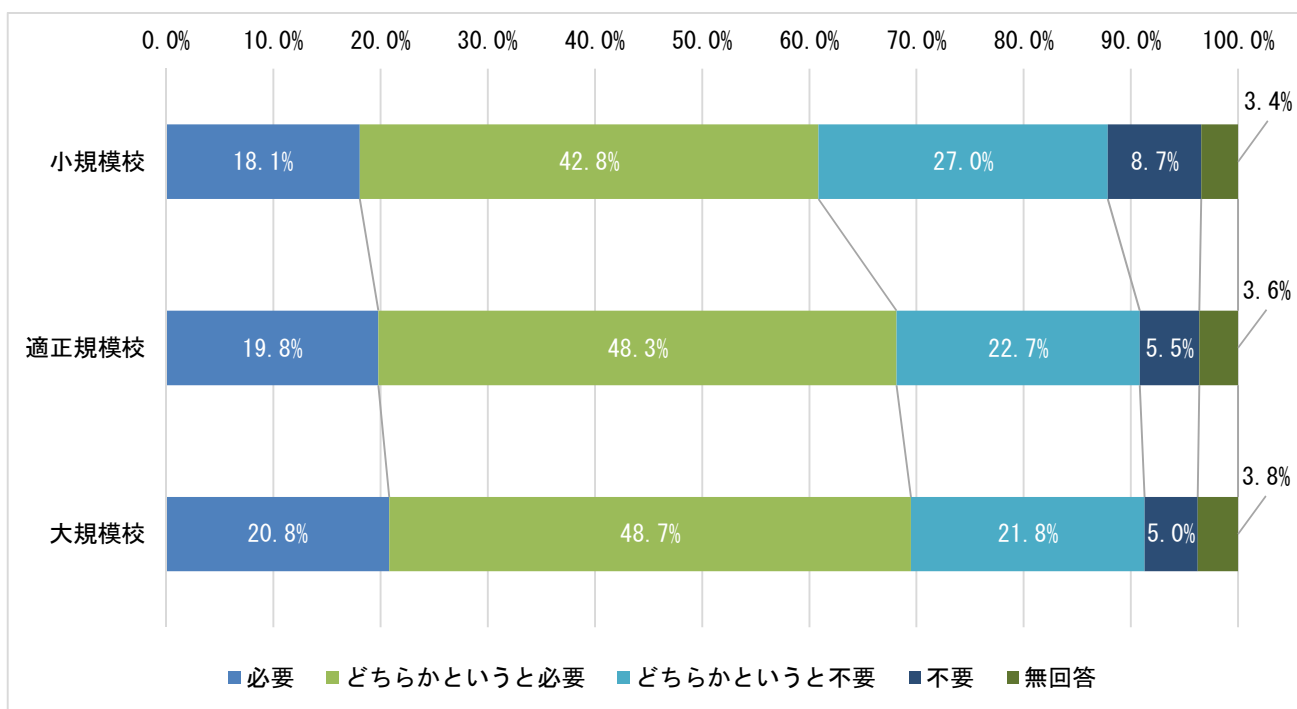


問N 小規模校対策（例えば学校の統合）は必要だと思いますか。（n=12,935）

小規模校対策の必要性については、「必要」と「どちらかという必要」を合わせた割合が 67.4%となっています。学校規模別にみると、極端な差はありませんが、小規模校の「必要」と「どちらかという必要」を合わせた割合は、他の規模と比較すると8ポイント程度低い割合となっています。



<学校規模別>（小規模校：n=2,363、適正規模校：n=5,623、大規模校：n=4,949）

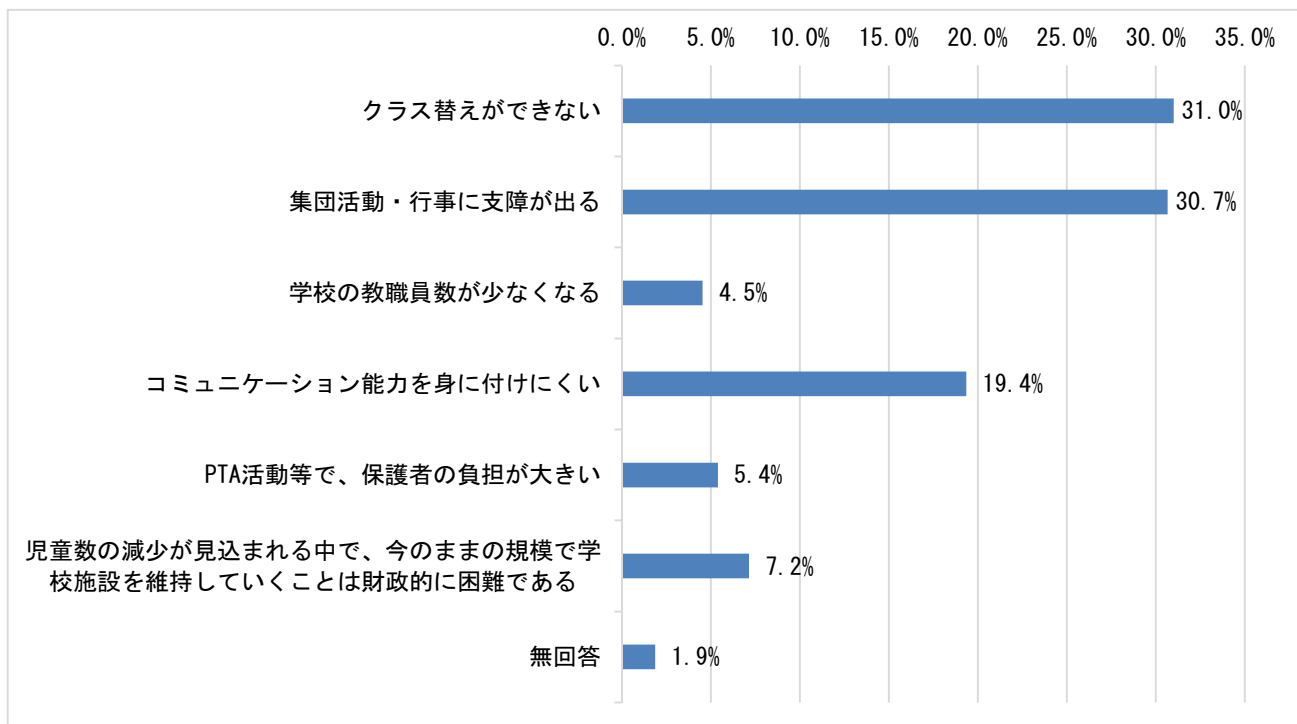


問〇 小規模校対策がなぜ必要だと思いますか。

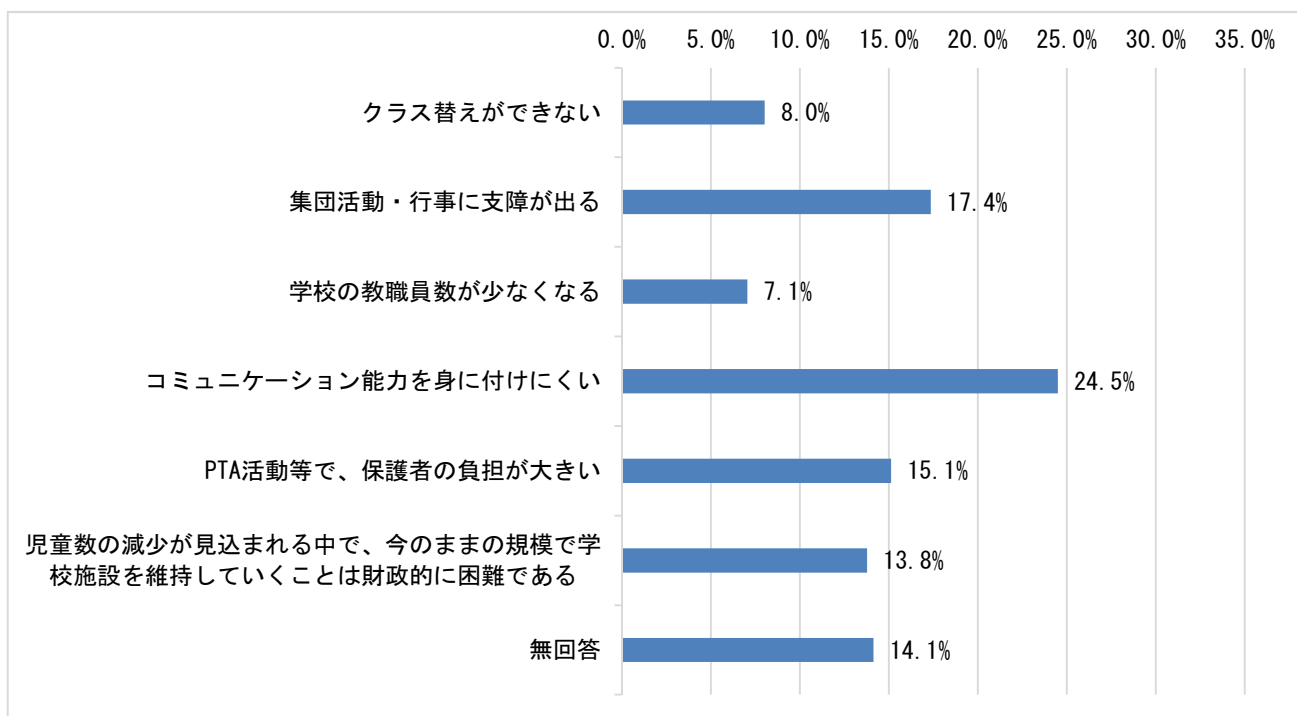
(問Nで「必要」または「どちらかという必要」を選択した場合のみ回答、n=8,709)

小規模校対策が必要な理由として、①の最もあてはまるものについては、「クラス替えができない」が31.0%、次いで、「集団活動・行事に支障が出る」が30.7%などとなっています。また、②の次にあてはまるものについては、「コミュニケーション能力を身に付けにくい」が24.5%、次いで「集団活動・行事に支障が出る」が17.4%などとなっています。

①最もあてはまるもの



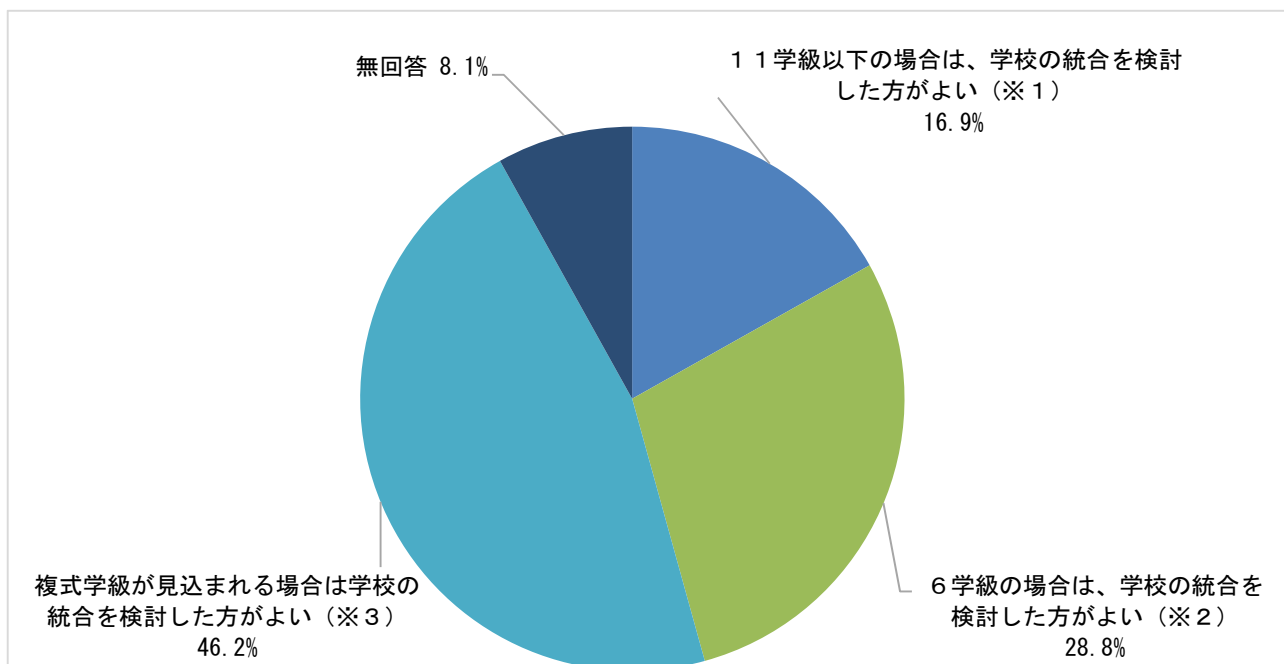
②次にあてはまるもの



問P 小規模校対策として、どのような状況で学校の統合を検討する必要があると思いますか。

(問Nで「必要」または「どちらか」という必要を選択した場合のみ回答、n=8,709)

学校の統合を検討する場合の学級数の状況として、「複式学級が見込まれる場合は学校の統合を検討した方がよい」が46.2%と最も高い割合を占めています。学校規模別でも、学校規模に関わらず、「複式学級が見込まれる場合は学校の統合を検討した方がよい」が半分程度の割合を占めています。



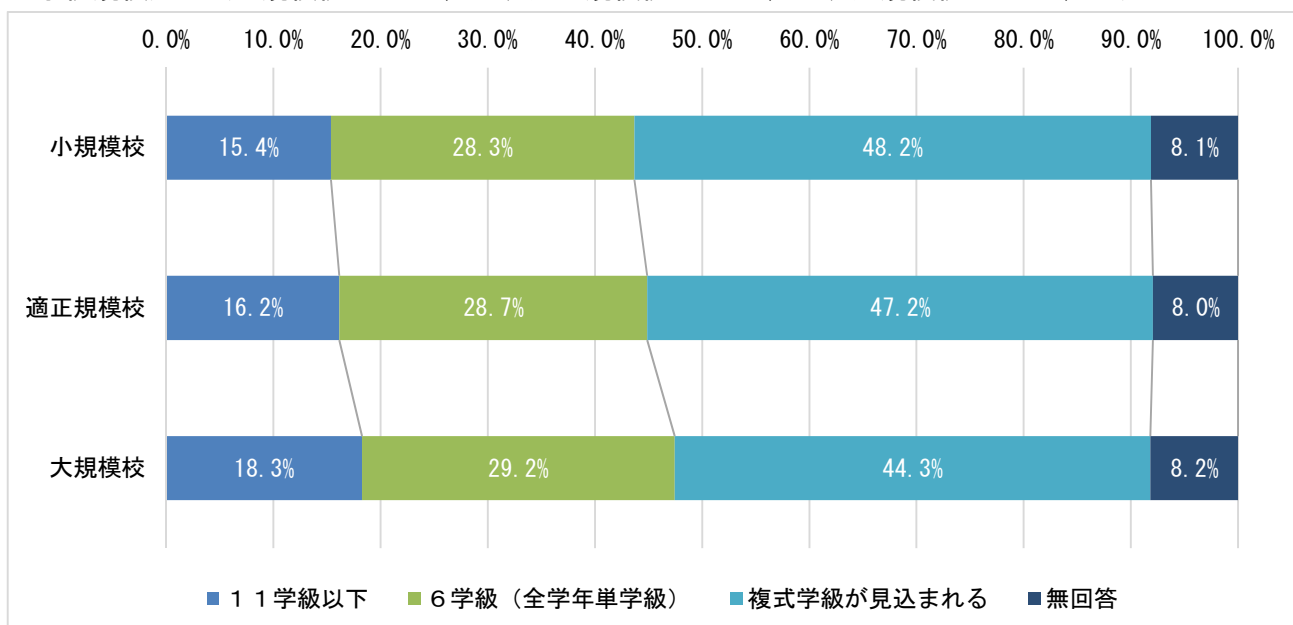
※1 学校全体で1学年でも単学級の学年がある場合

※2 全学年が単学級の場合

※3 2つの学年をひとつにまとめた学級がある場合

(1・2年生は合計7人以下、3・4年生及び5・6年生は合計14人以下)

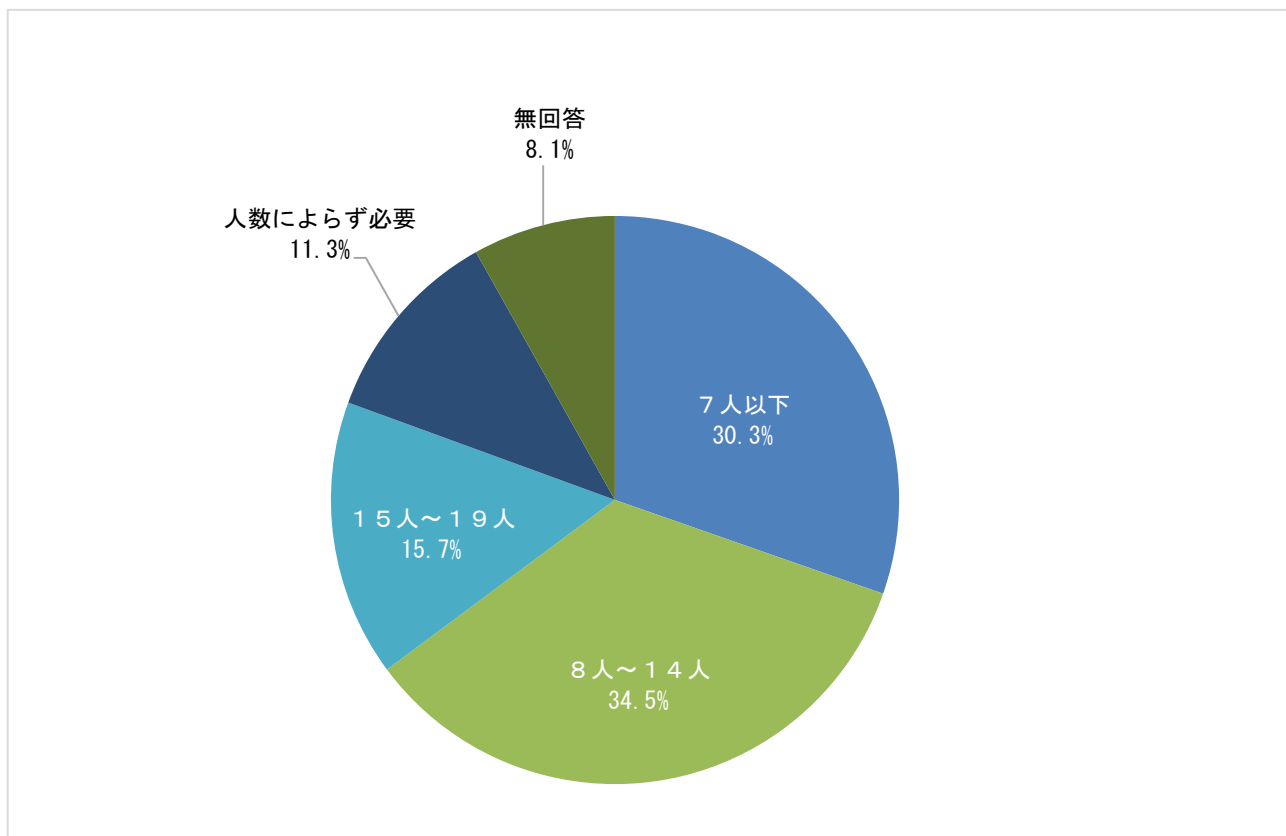
<学校規模別> (小規模校：n=1,438、適正規模校：n=3,832、大規模校：n=3,439)



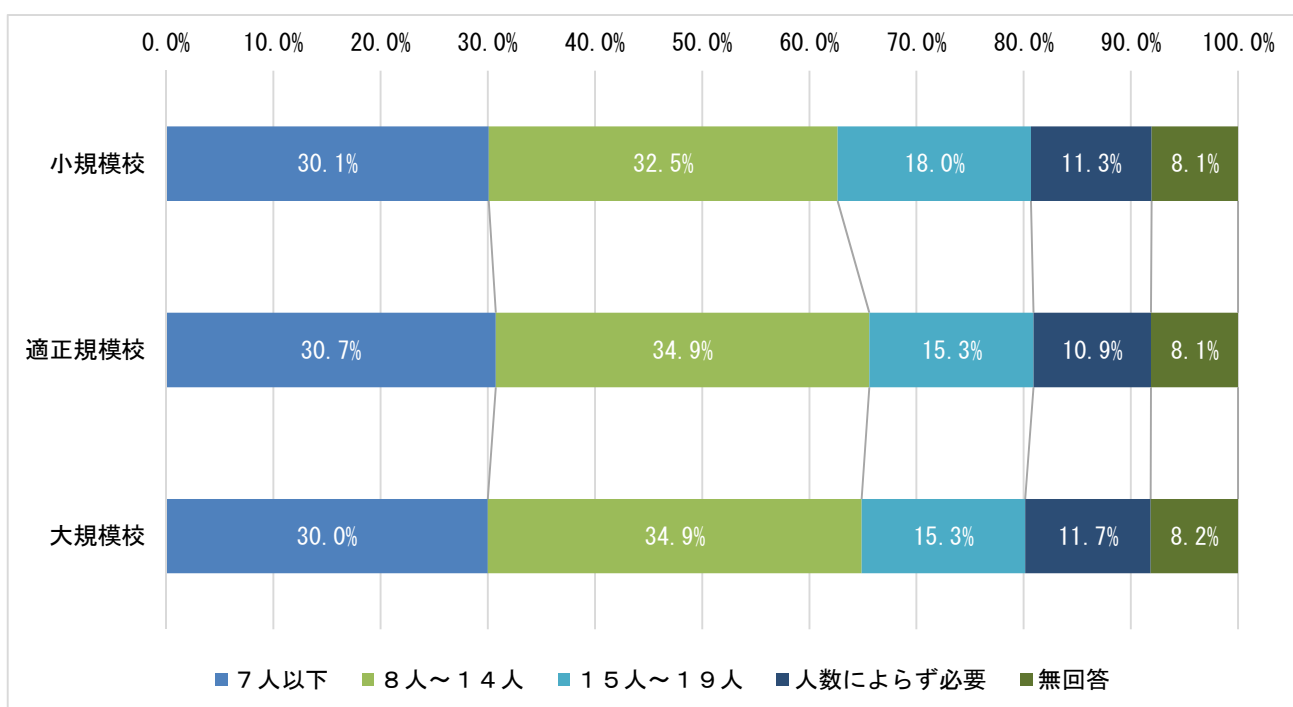
問Q 小規模校対策として、1学級あたりの人数がどのくらいの状態になった場合に、学校の統合を検討する必要があると思いますか。

(問Nで「必要」または「どちらかという必要」を選択した場合のみ回答、n=8,709)

学校の統合を検討する場合の1学級あたりの人数の状態として、「8人～14人」が34.5%、次いで「7人以下」が30.3%とほぼ同様の割合を占めています。学校規模別でも、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。



<学校規模別> (小規模校：n=1,438、適正規模校：n=3,832、大規模校：n=3,439)

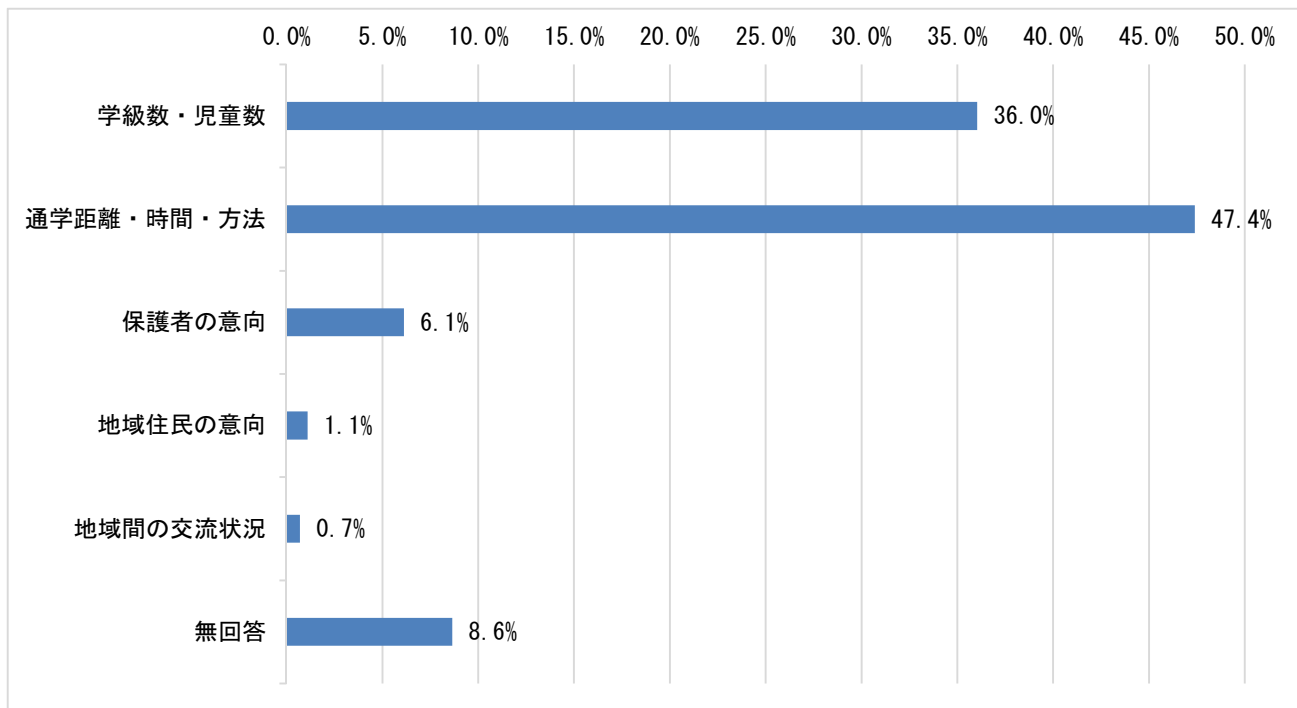


問R 学校の統合を検討する場合に重視すべきことは何だと思えますか。

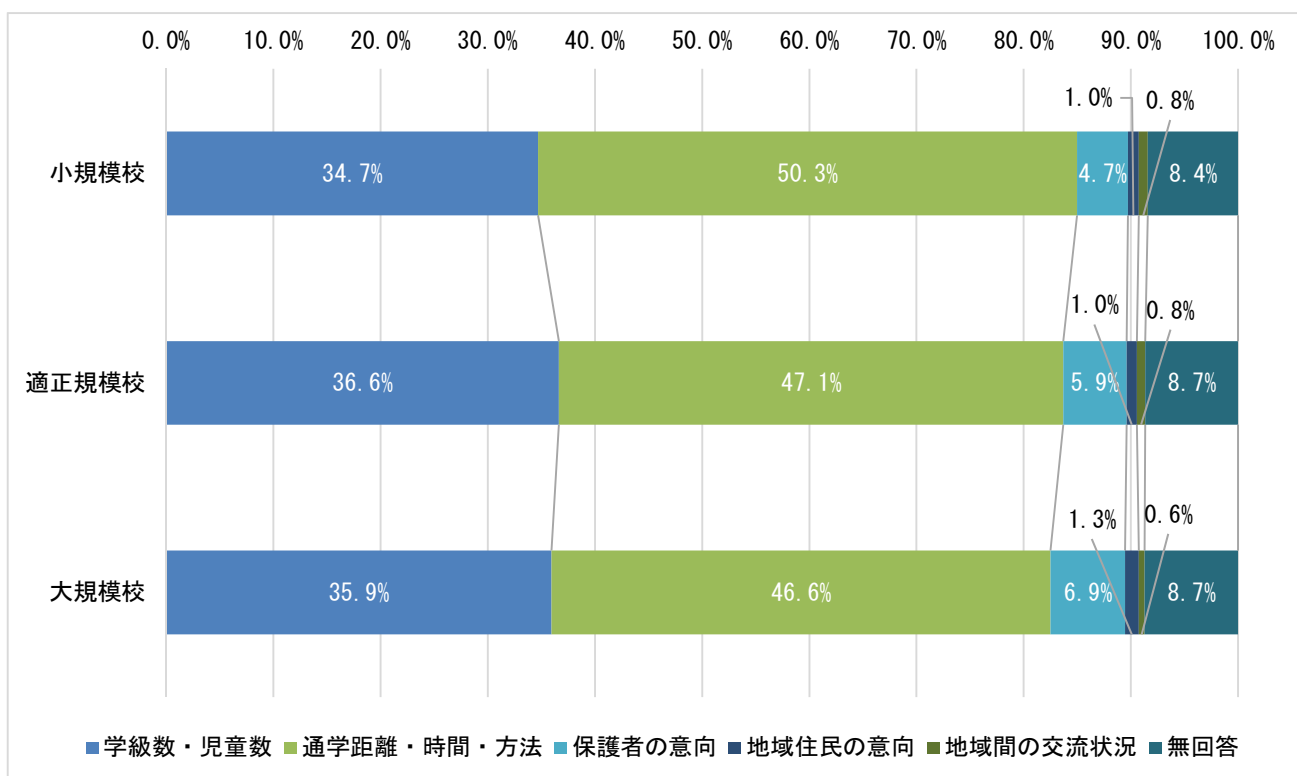
(問Nで「必要」または「どちらかという必要」を選択した場合のみ回答、n=8,709)

①最もあてはまるもの

学校の統合を検討する場合に重視すべき点として、①の最もあてはまるものについては、「通学距離・時間・方法」が47.4%と最も高い割合を占めており、次いで、「学級数・児童数」が36.0%などとなっています。学校規模別にみると、極端な差はありませんが、小規模校では「通学距離・時間・方法」の割合が過半数を占めています。

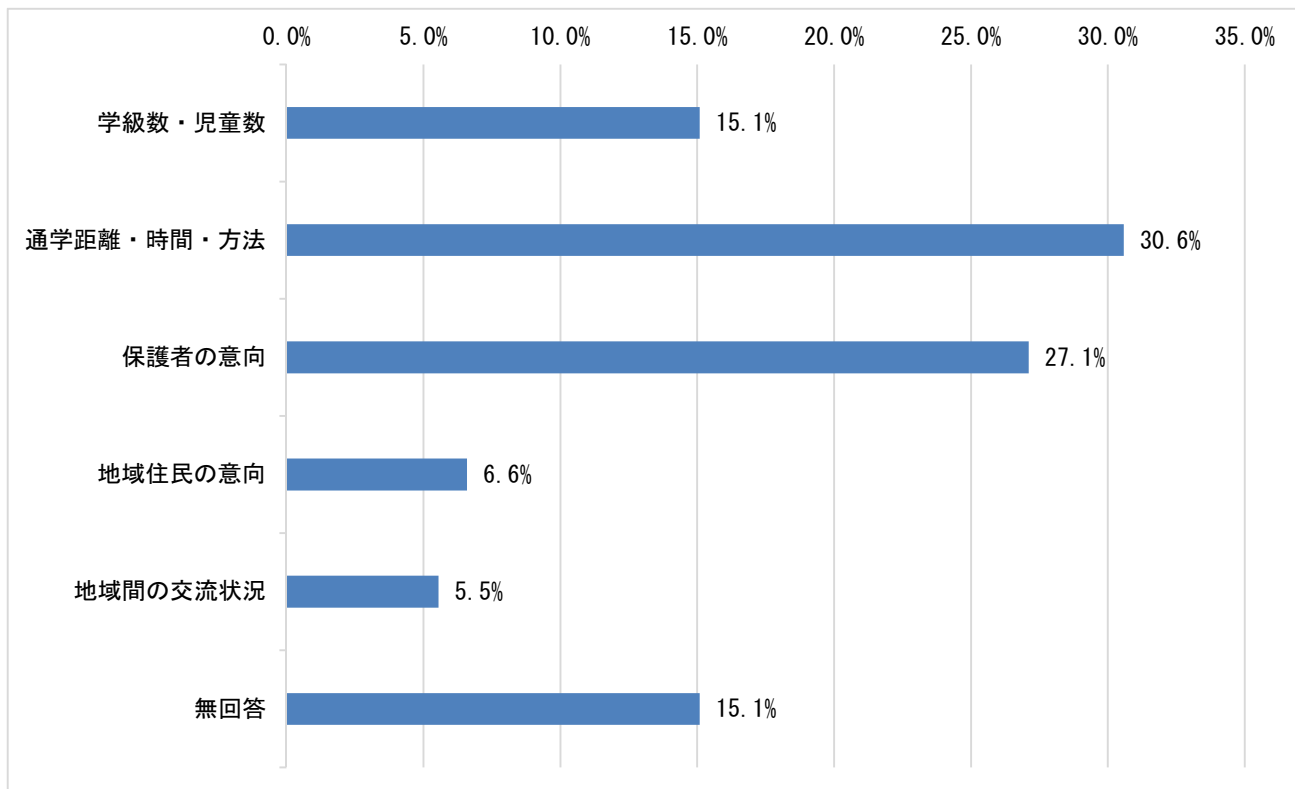


<学校規模別> (小規模校：n=1,438、適正規模校：n=3,832、大規模校：n=3,439)

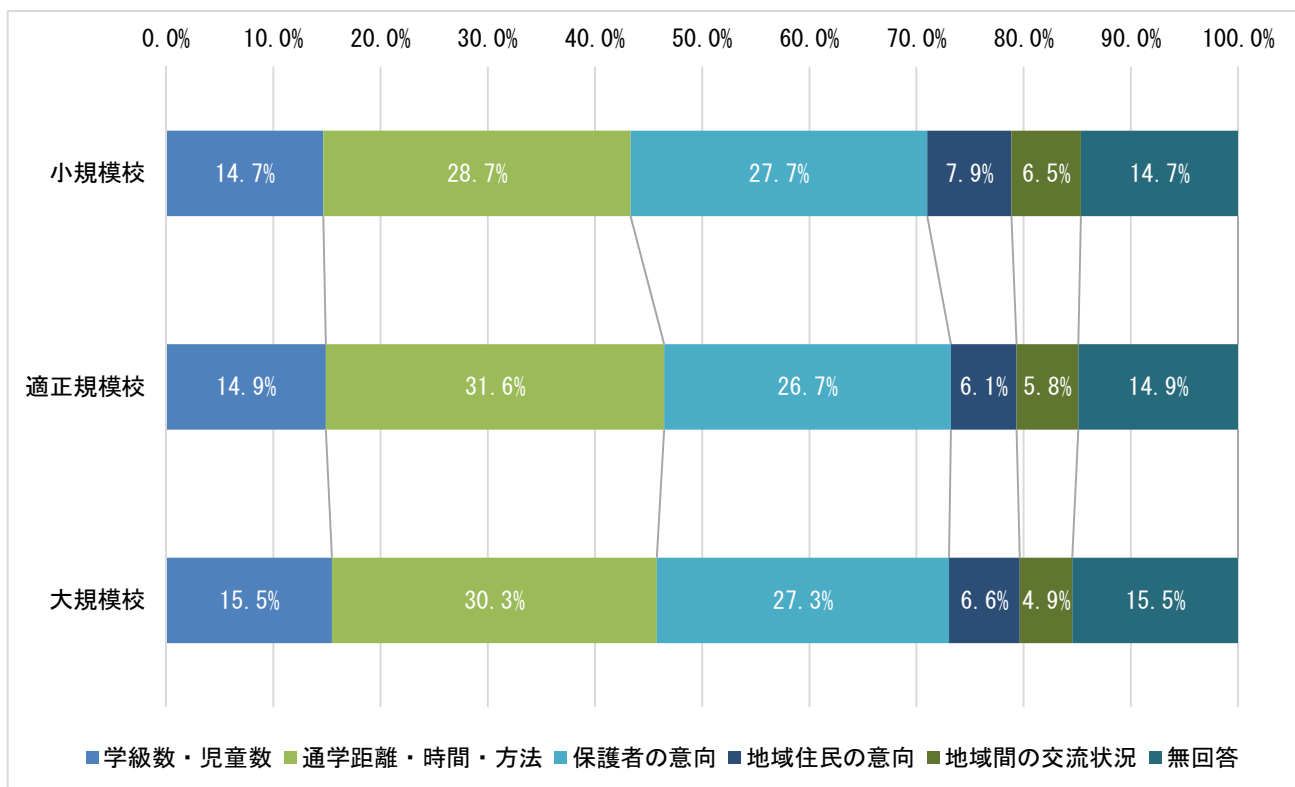


②次にあてはまるもの

学校の統合を検討する場合に重視すべき点として、②の次にあてはまるものについては、「通学距離・時間・方法」が30.6%と最も高い割合を占めており、次いで、「保護者の意向」が27.1%などとなっています。学校規模別でも、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。



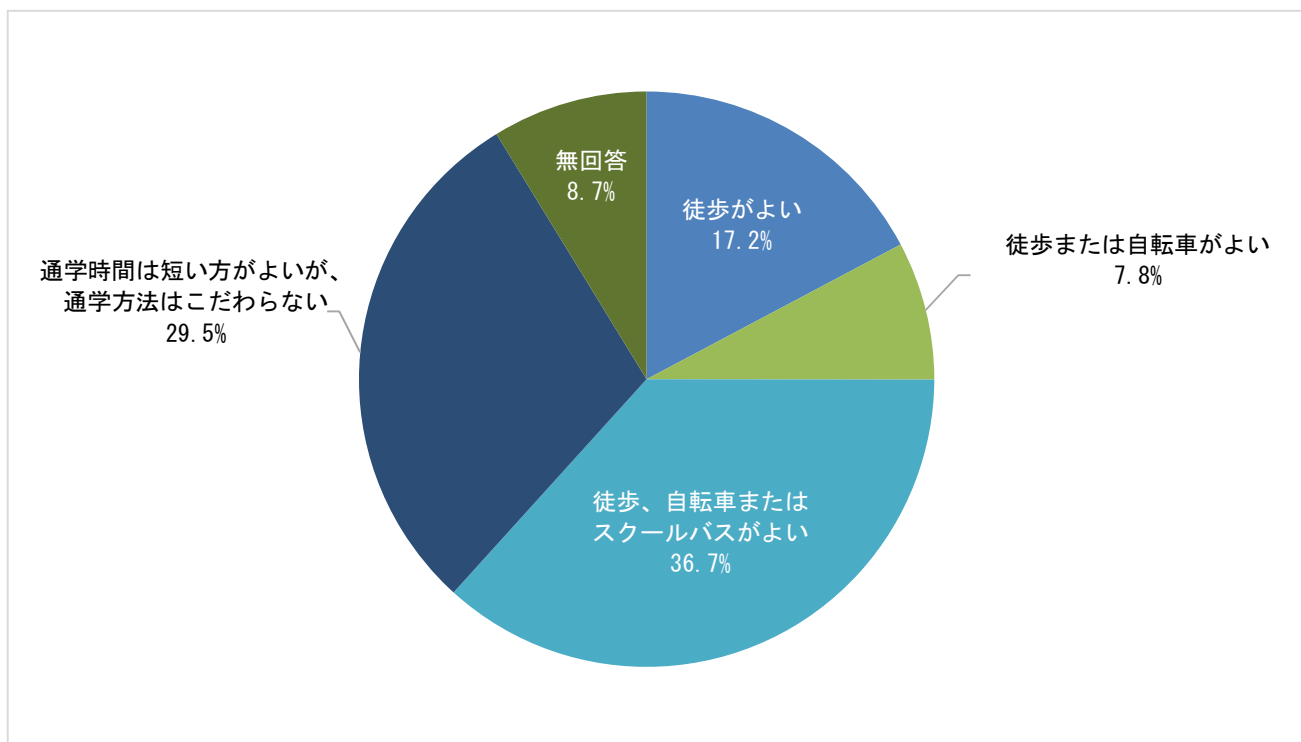
<学校規模別> (小規模校：n=1,438、適正規模校：n=3,832、大規模校：n=3,439)



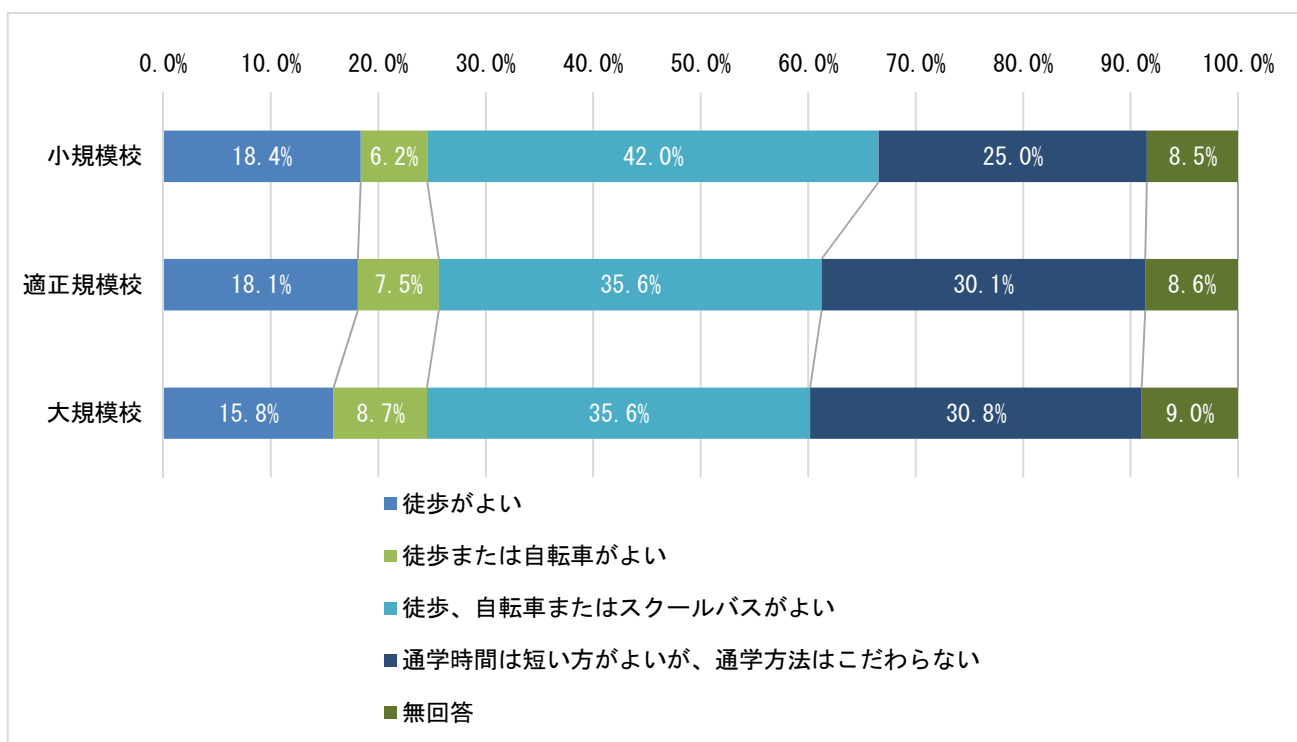
問S 学校の統合を検討する場合、通学方法についてどのように思いますか。

(問Nで「必要」または「どちらかという必要」を選択した場合のみ回答、n=8,709)

学校の統合を検討する場合、通学方法については、「徒歩、自転車またはスクールバスがよい」が36.7%と最も高い割合を占めており、次いで、「通学時間は短い方がよいが、通学方法はこだわらない」が29.5%などとなっています。学校規模別でみると、学校規模に関わらず、どの規模も小学校全体とほぼ同様の割合となっていますが、小規模校の「徒歩、自転車またはスクールバスがよい」の割合が、他の規模と比較すると6ポイント程度高い割合となっています。



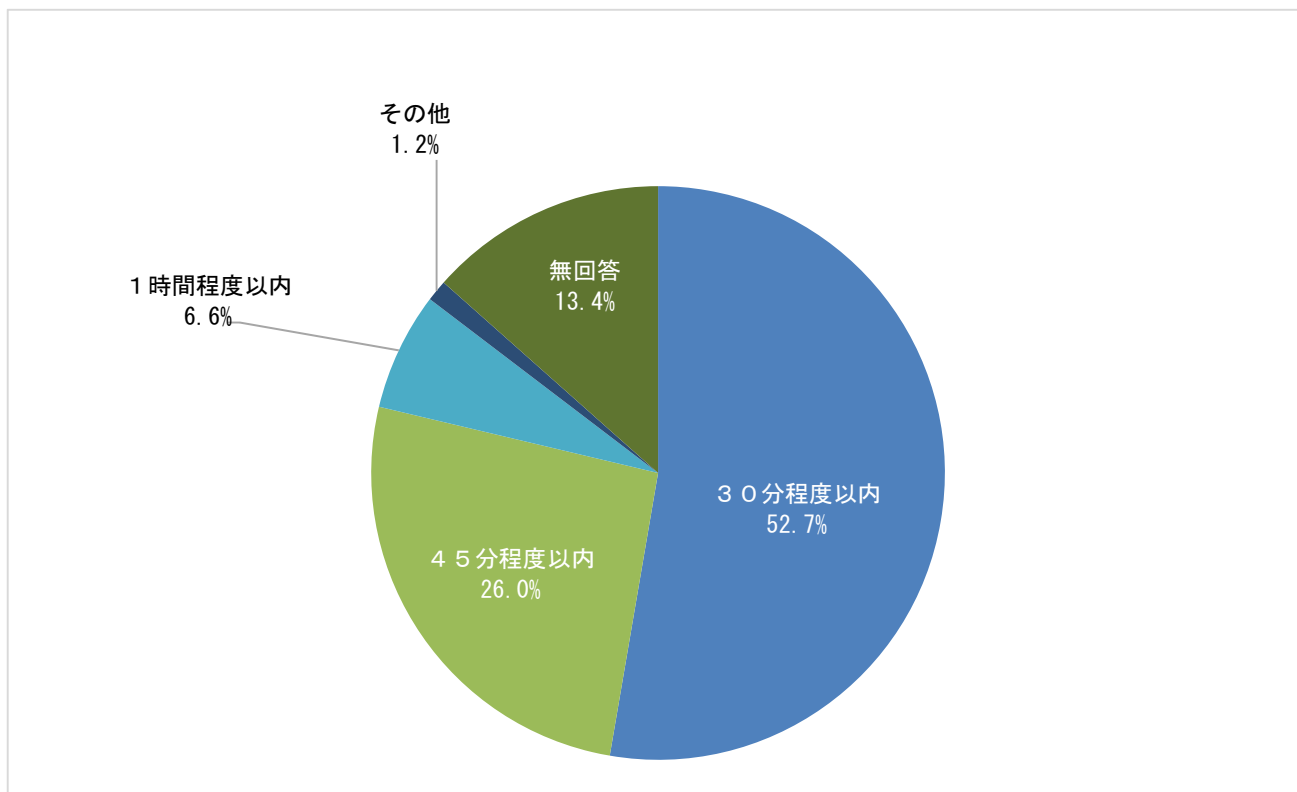
<学校規模別> (小規模校：n=1,438、適正規模校：n=3,832、大規模校：n=3,439)



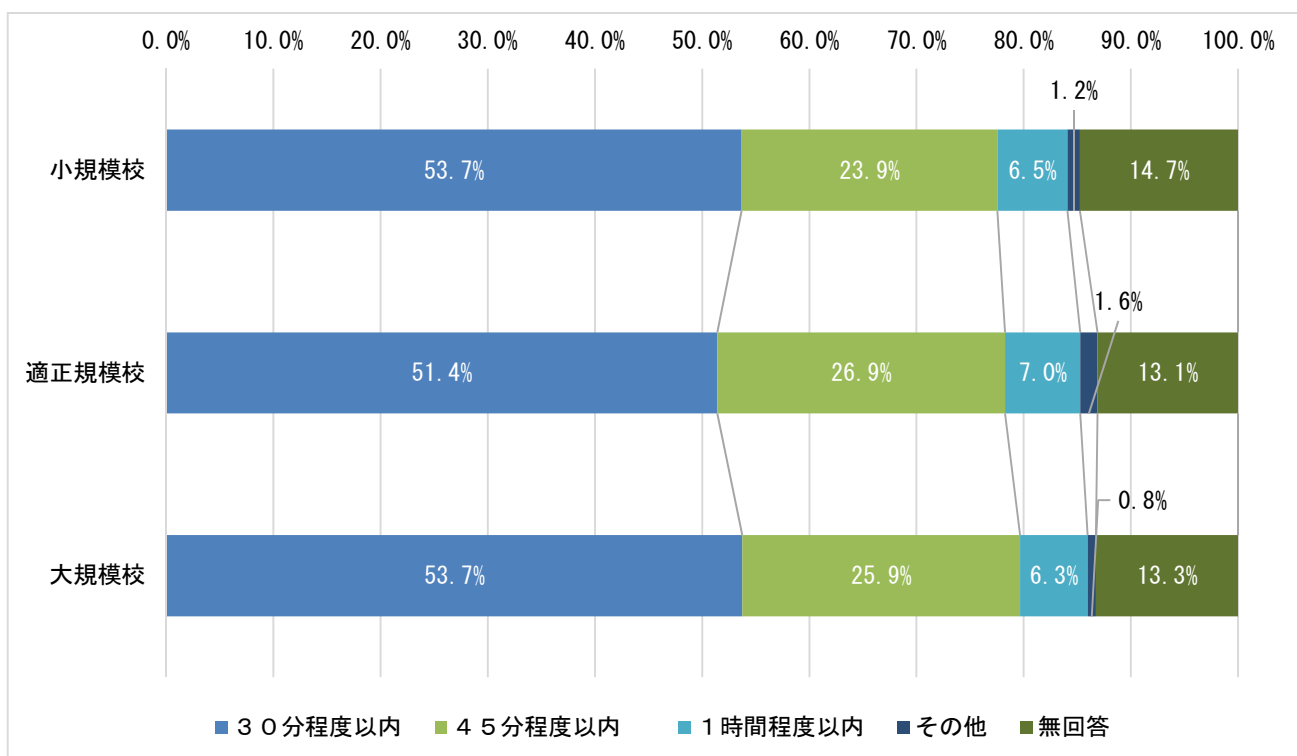
問T 学校の統合を検討する場合、通学時間の限度についてどのように思いますか。

(問Nで「必要」または「どちらかという必要」を選択した場合のみ回答、n=8,709)

学校の統合を検討する場合、通学時間の限度については、「30分程度以内」が52.7%と最も高い割合を占めています。学校規模別でも、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。



<学校規模別> (小規模校：n=1,438、適正規模校：n=3,832、大規模校：n=3,439)

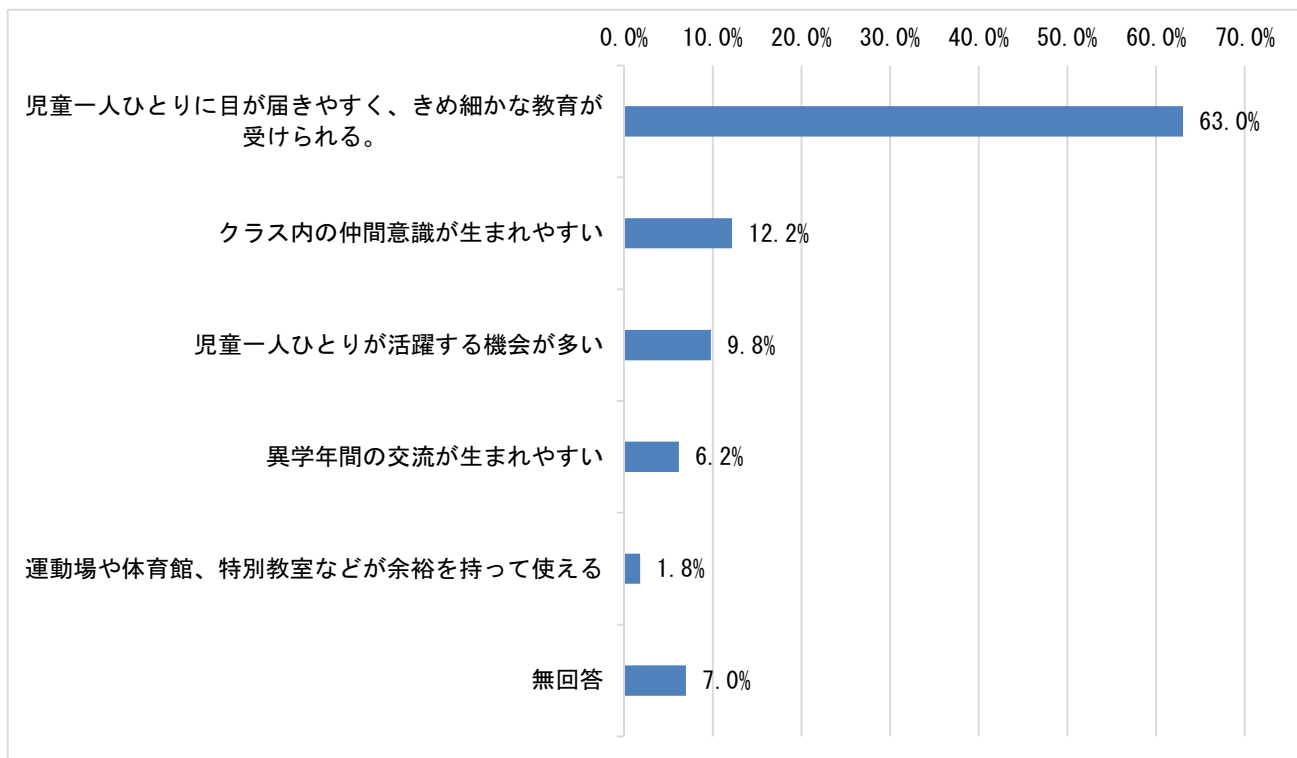


問U 小規模校対策がなぜ不要だと思いますか。

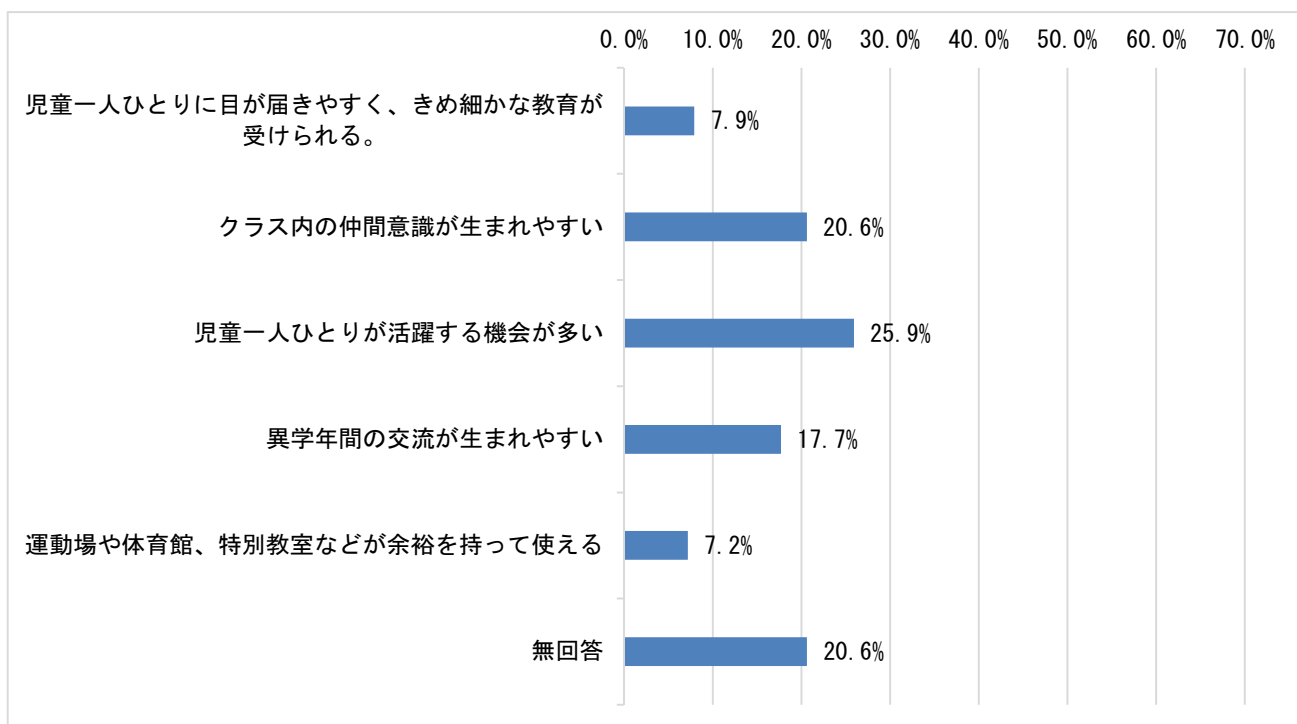
(問Nで「不要」または「どちらかというとな必要」を選択した場合のみ回答、n=3,754)

小規模校対策が不要な理由として、①の最もあてはまるものについては、「児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる。」が63.0%と最も高い割合を占めています。また、②の次にあてはまるものについては、「児童一人ひとりが活躍する機会が多い」が25.9%、次いで「クラス内の仲間意識が生まれやすい」が20.6%などとなっています。

①最もあてはまるもの



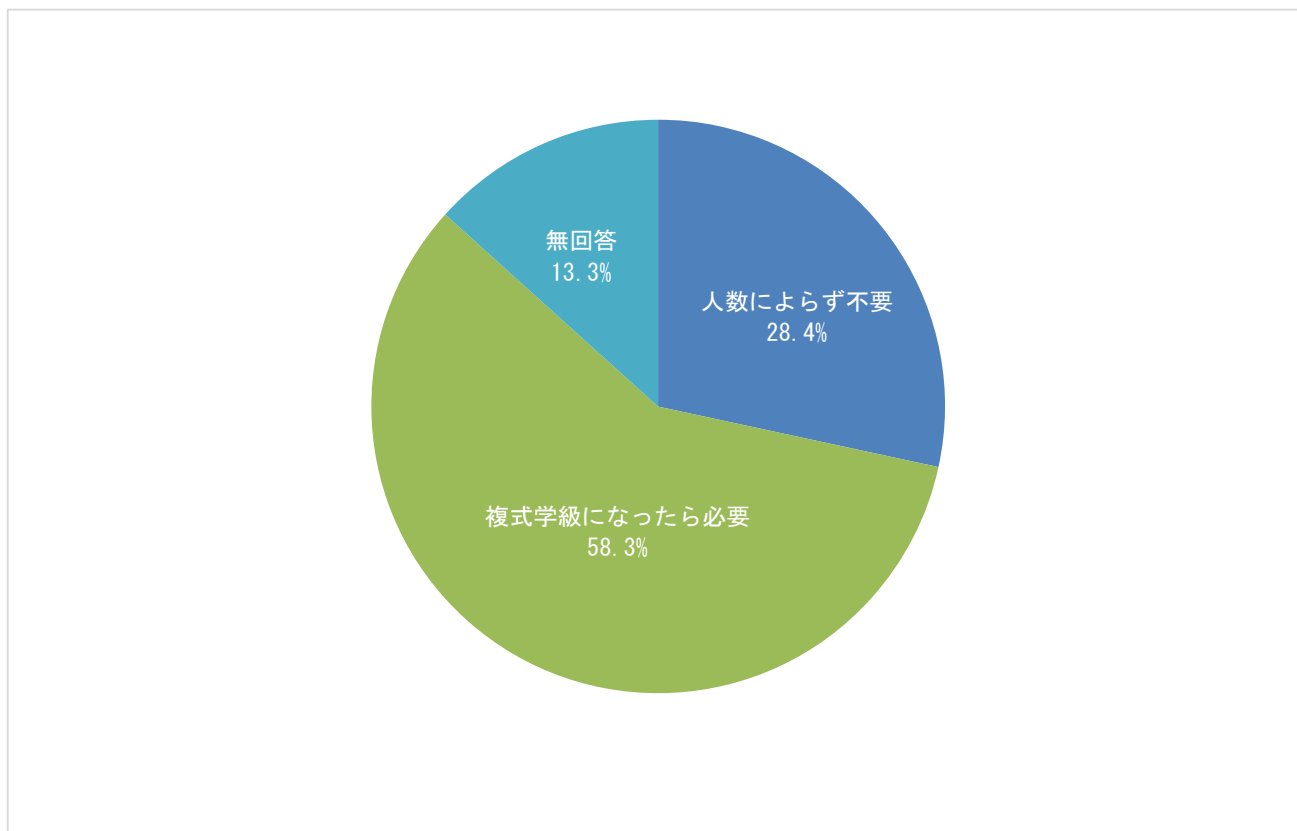
②次にあてはまるもの



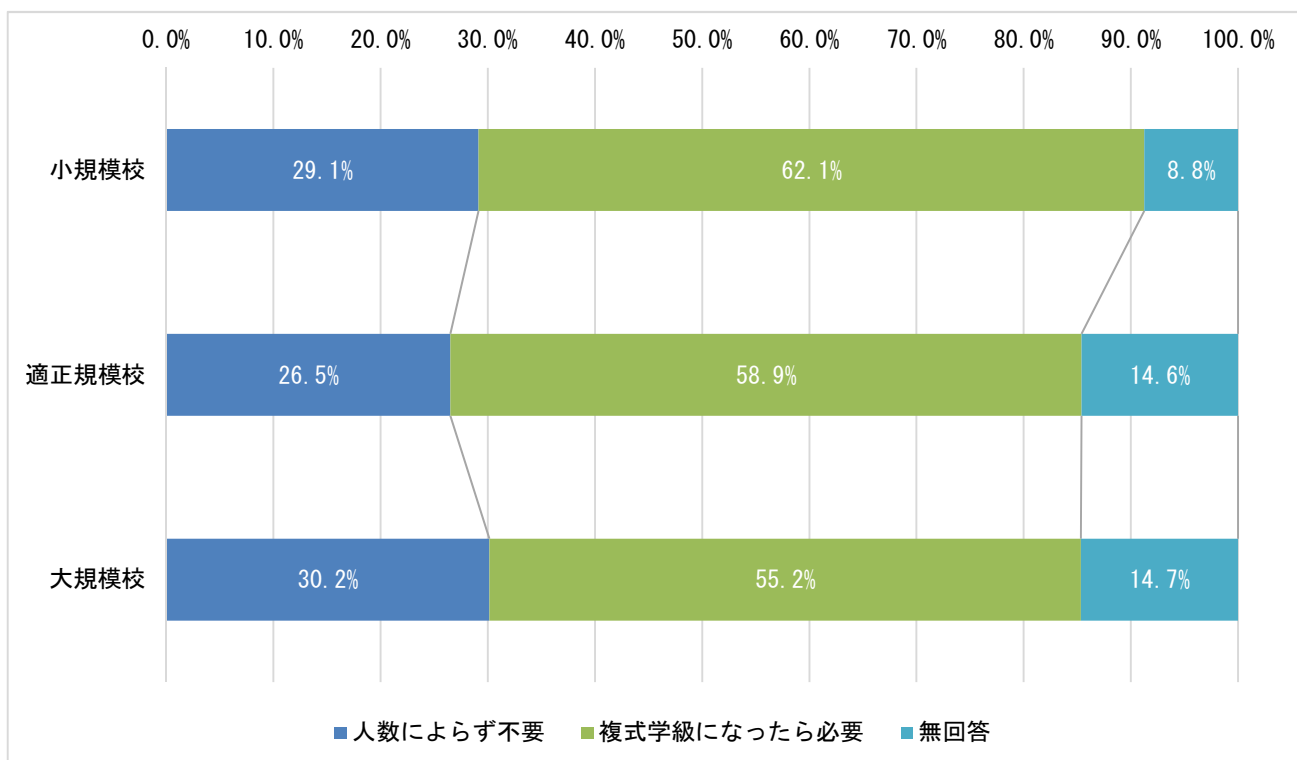
問Ⅴ 小規模校対策を不要とする条件についてどのように思いますか。

(問Ⅴで「不要」または「どちらかというと不要」を選択した場合のみ回答、n=3,754)

小規模校対策は「不要」または「どちらかというと不要」を選択した場合でも、「複式学級になったら必要」が58.3%と高い割合を占めています。学校規模別でも、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。



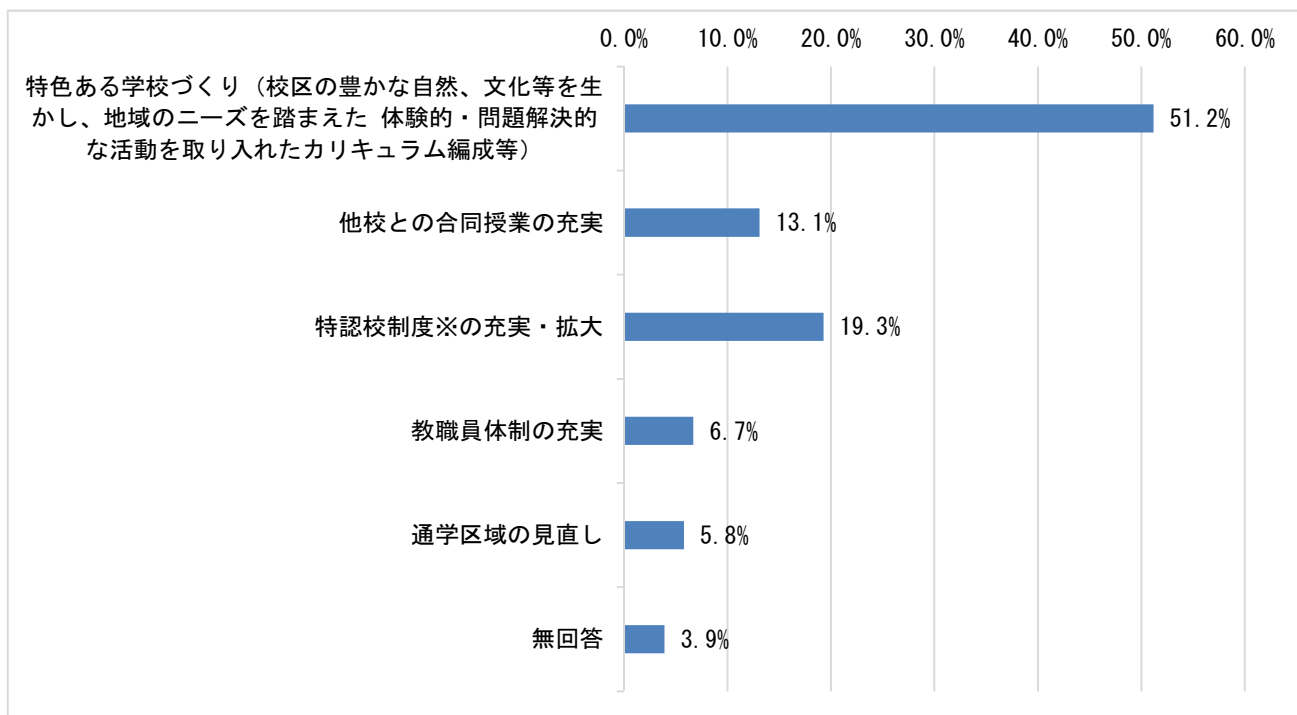
<学校規模別> (小規模校：n=844、適正規模校：n=1,587、大規模校：n=1,323)



問W 小規模校として存続する場合に必要なことは何だと思えますか。(n=12,935)

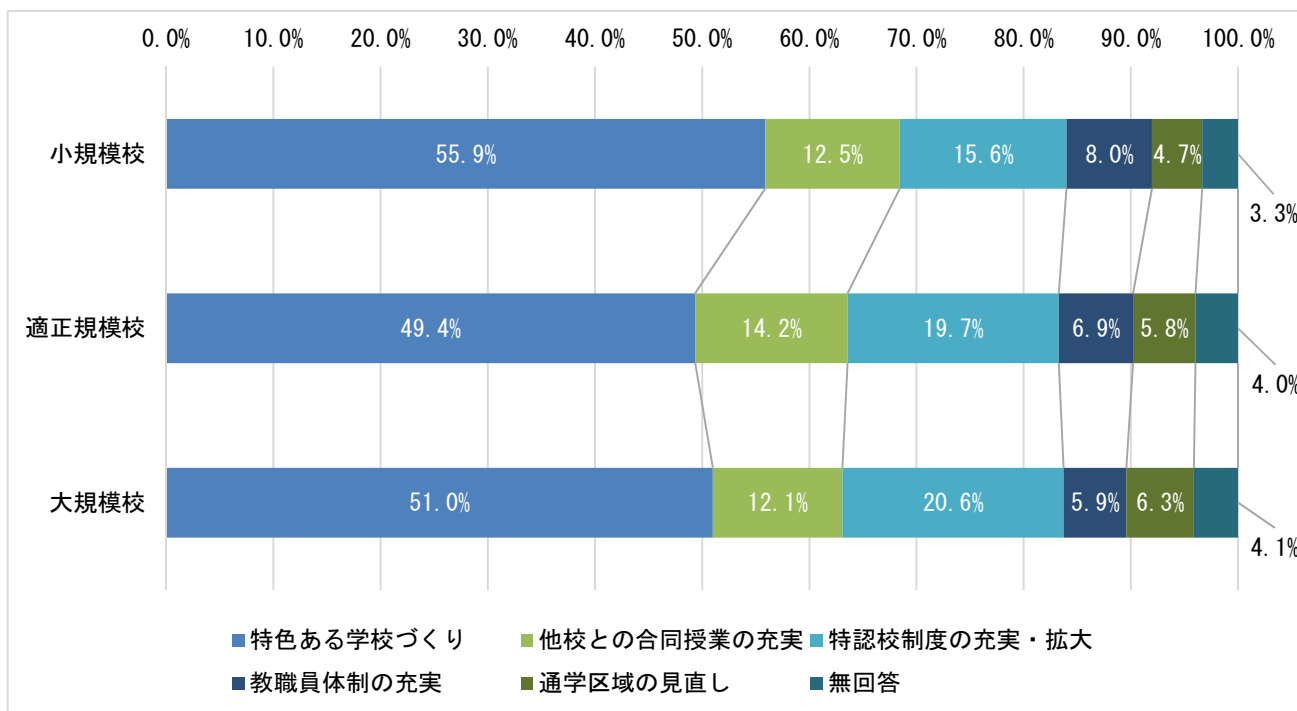
①最もあてはまるもの

小規模校として存続する場合に必要なこととして、①の最もあてはまるものについては、「特色ある学校づくり」が51.2%と最も高い割合を占めています。学校規模別でも、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。



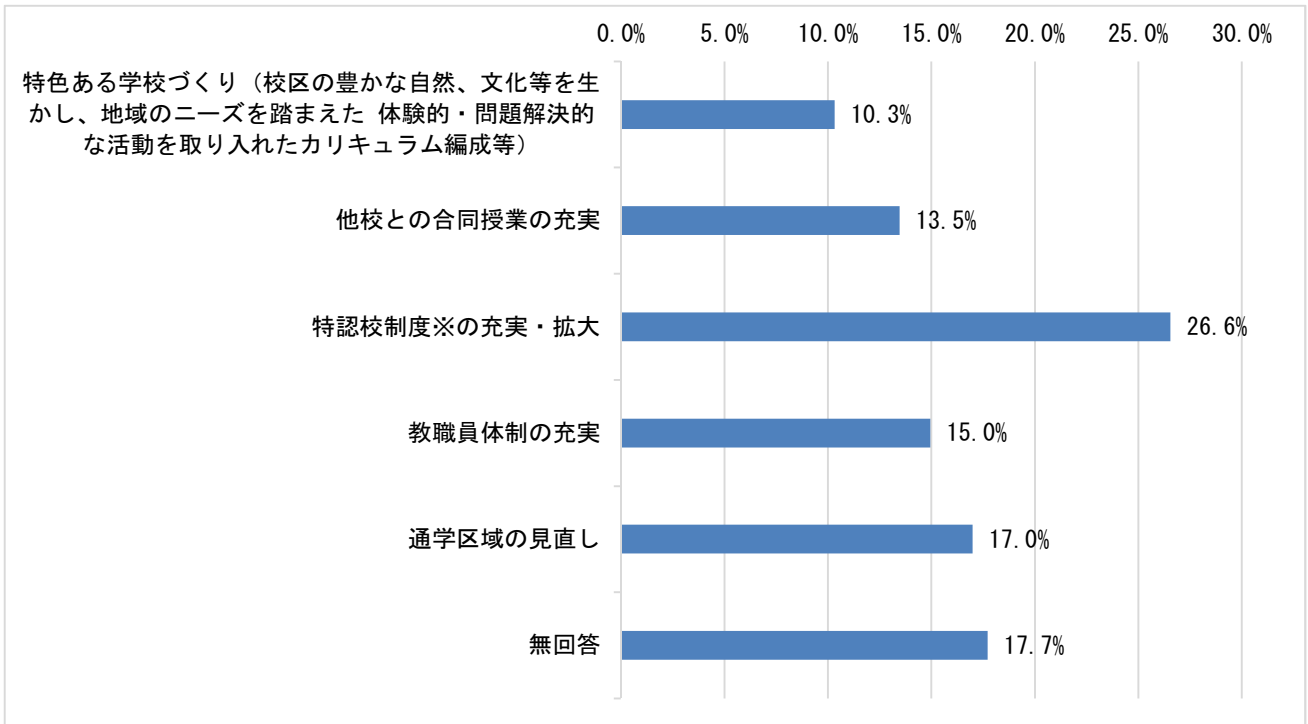
※ 小規模校の良さを生かし、特色ある学校づくりを行い、その学校で学ばせたい希望者に、通学区域にとらわれず入学を許可する制度

<学校規模別> (小規模校：n=2,363、適正規模校：n=5,623、大規模校：n=4,949)



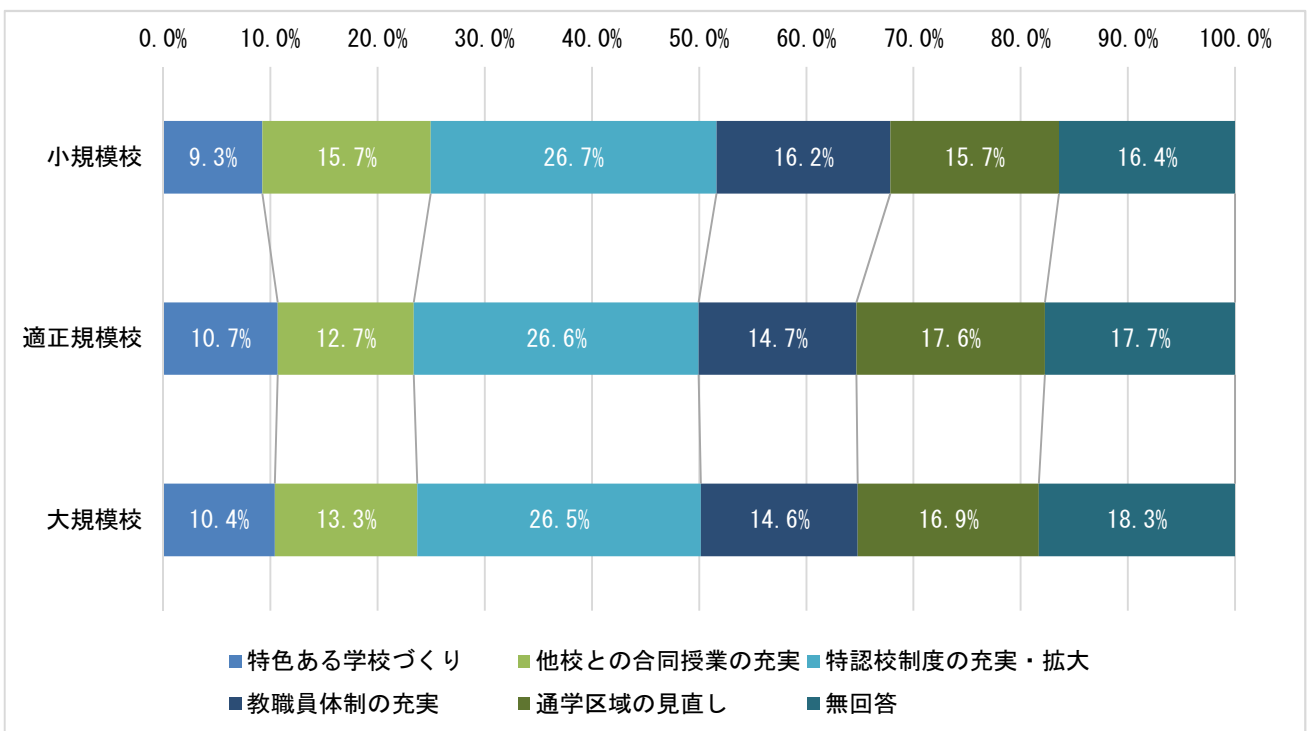
②次にあてはまるもの

小規模校として存続する場合に必要なこととして、②の次にあてはまるものについては、「特認校制度の充実・拡大」が26.6%と最も高い割合を占めており、次いで、「通学区域の見直し」が17.0%などとなっています。学校規模別でも、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。



※ 小規模校の良さを生かし、特色ある学校づくりを行い、その学校で学ばせたい希望者に、通学区域にとらわれず入学を許可する制度

<学校規模別>（小規模校：n=2,363、適正規模校：n=5,623、大規模校：n=4,949）

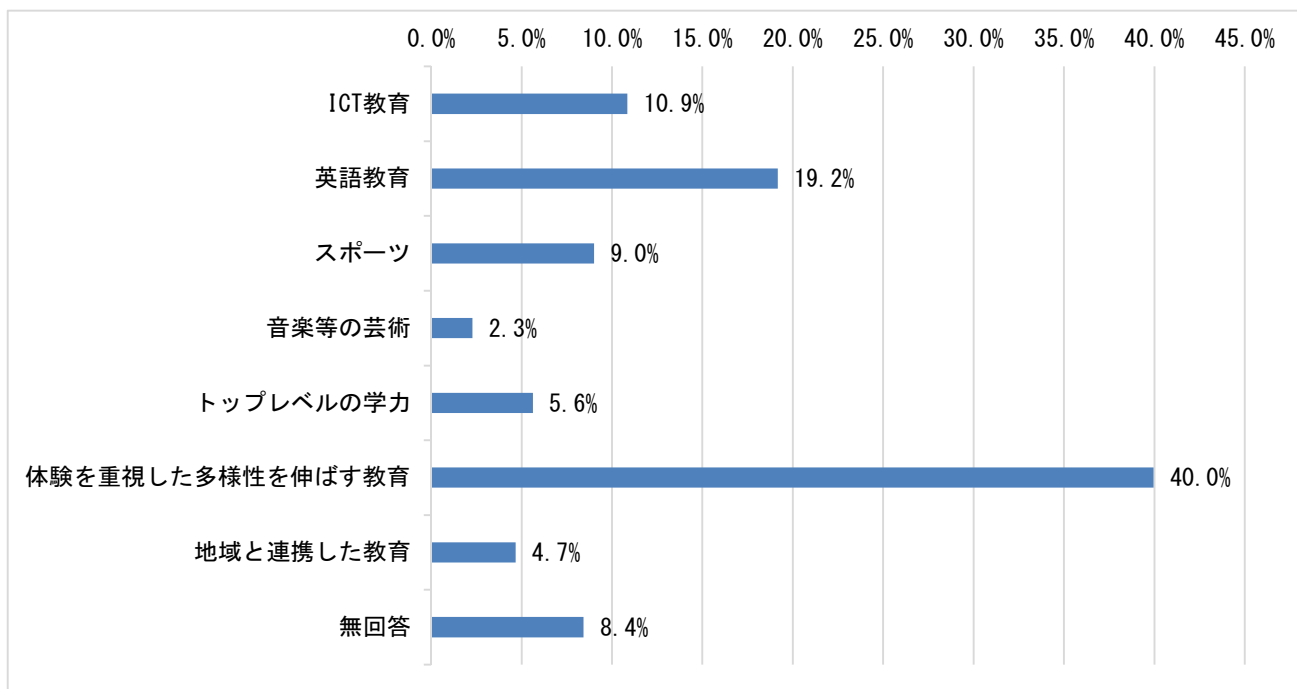


問X どのような特認校を充実・拡大した方がよいと思いますか。

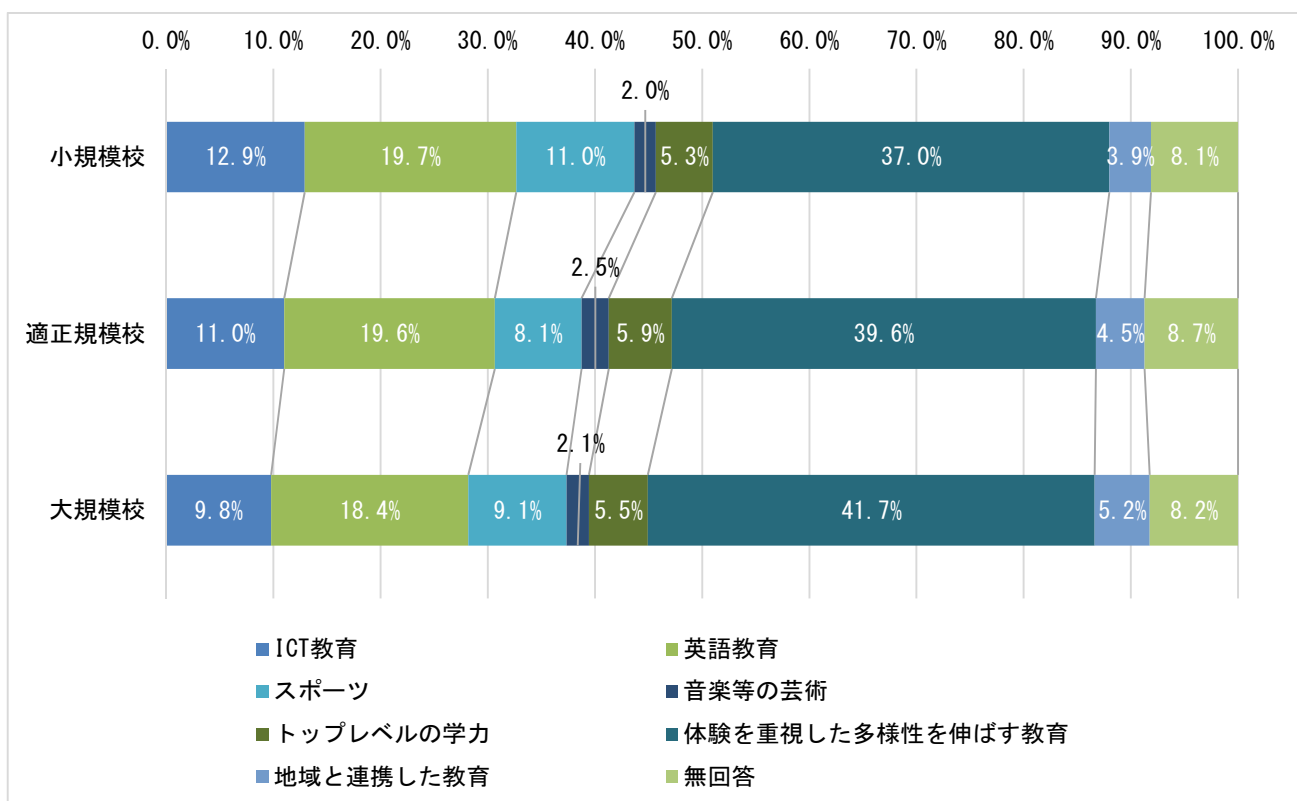
(問Wで「特認校制度の充実・拡大」を選択した場合のみ回答、n=5,931)

①最もあてはまるもの

どのような特認校を充実・拡大した方がよいと思うかとして、①の最もあてはまるものについては、「体験を重視した多様性を伸ばす教育」が40.0%と最も高い割合を占めており、次いで「英語教育」が19.2%などとなっています。学校規模別でも、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。

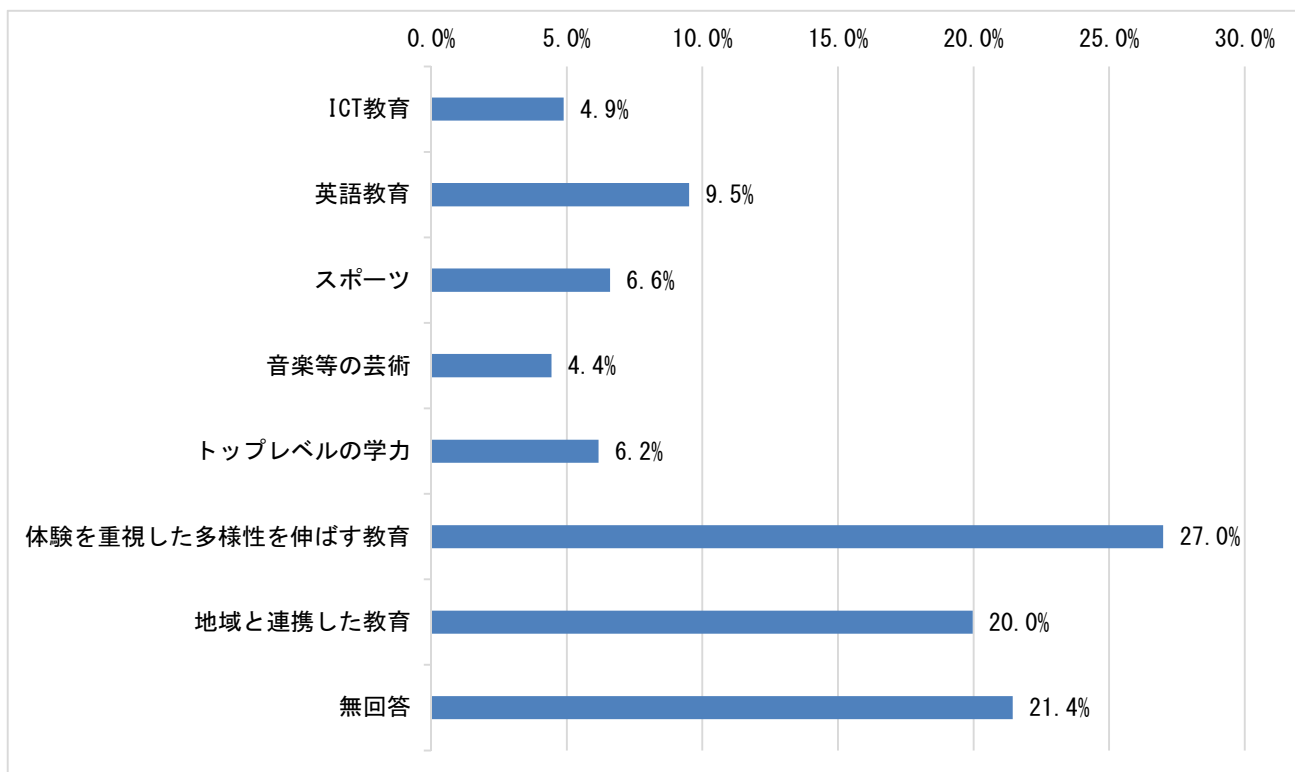


<学校規模別> (小規模校：n=998、適正規模校：n=2,603、大規模校：n=2,330)

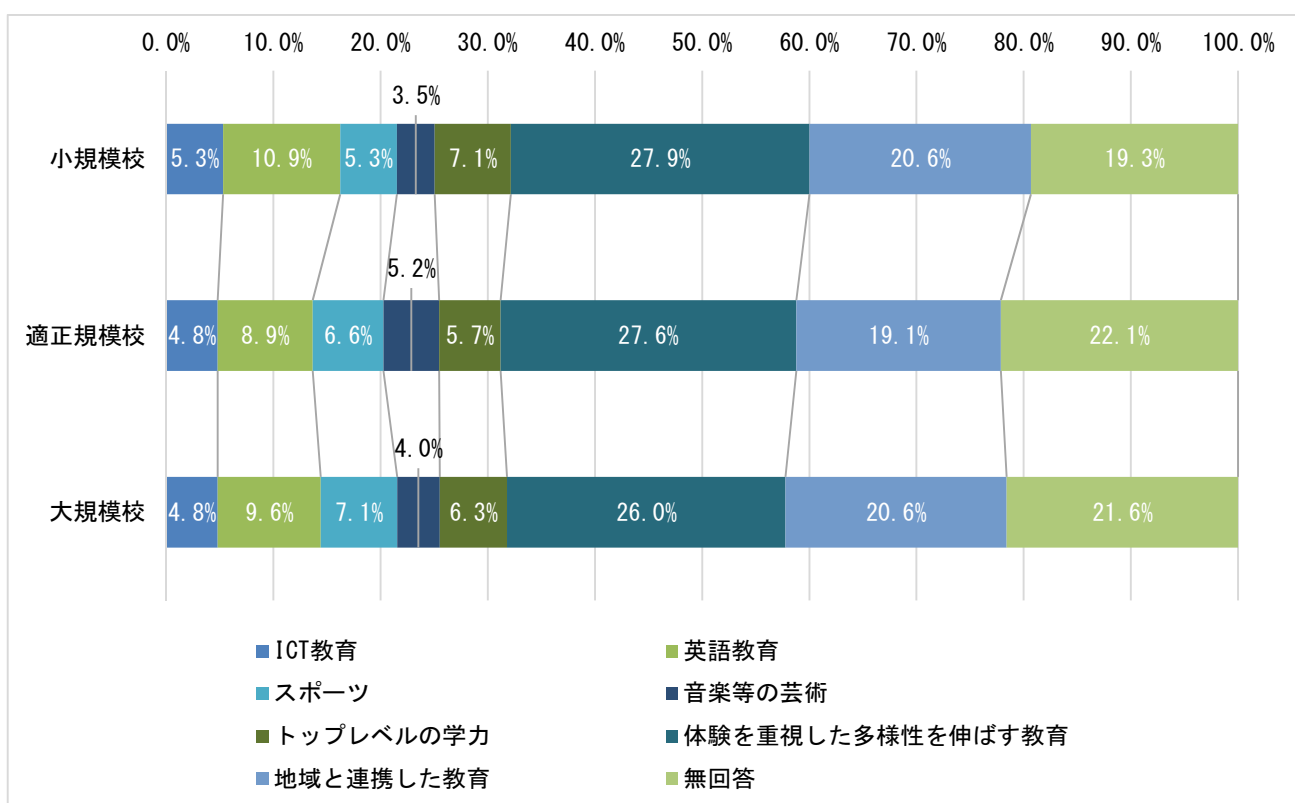


②次にあてはまるもの

どのような特認校を充実・拡大した方がよいと思うかとして、②の次にあてはまるものについては、「体験を重視した多様性を伸ばす教育」が27.0%と最も高い割合を占めており、次いで「地域と連携した教育」が20.0%などとなっています。学校規模別でも、学校規模に関わらず、小学校全体とほぼ同様の割合となっています。



<学校規模別> (小規模校 : n=998、適正規模校 : n=2,603、大規模校 : n=2,330)



3. 自由意見（730件）

■学校規模適正化について

○通学手段

- ・統合をすとした場合に、通学距離が長くなることを懸念する意見が多くありました。
- ・その対策としてスクールバスの導入が必要とする意見とともに、小学生では自転車通学は危険であるとする意見も多くありました。
- ・一方で、通学時間や通学距離が長くなることが理由で、統合には反対であるとする意見もありました。

○1学級あたりの理想的な児童数

- ・文科省の基準では多すぎると感じている保護者が多く、3年生以上でも35名以下、あるいは30名以下を理想とする意見が多くありました。

○特認校制度

- ・特色ある教育を実践する特認校制度は良いとする一方で、保護者の送迎が負担となり選択するには至らないといった意見も多くありました。
- ・一方で、公立学校ではどの学校で教育を受けても同じであるべき、とする意見も多くありました。

○通学区域の見直し

- ・統合ではなく、通学区域の見直しを望む意見もありました。また、通学区域に限らず自由に通学校を選択できる制度を望む意見も多くありました。

○その他

- ・小規模校対策だけではなく、大規模校対策を望む意見もありました。
- ・特定地域隣接校選択制度は、子ども会や学校行事への参加方法に課題が残るといった意見がありました。

■その他（学校全般）について

- ・運動会の熱中症対策（半日化など）
- ・エアコンの早急な設置
- ・トイレの洋式化
- ・PTA活動の負担軽減
- ・放課後児童クラブの充実
- ・登下校時の荷物軽減
- ・教員の資質向上
- ・市全体で子供を増やす（人を呼び込む）施策の推進